

白皇朝歷代沿革圖初序

神祖承

神聖之光烈恢遠至業建國三十餘國

置國造縣主以謹祭祀創垂善法時至今來列

不遠道與世教

皇道與世昭昭

景行天皇親心

西漢之代東夷四海歸寧

成務天皇繼之界山

河海國輻輳地立造長置福至疆界大定至

淳和天皇分為六十六區建國是詳明 後白河

天皇之隆平頌源跡國土分裂 後土門天皇

應仁之亂足利氏漸微當此之時天下郡縣割據

其道陵夷懷亂極矣建康沿革之述不可不察也

至于 後永尾天皇之和開德川氏統政海內歸一

世之勢始成焉是古今沿革之大梗也舊有國解

讀國史者以之照證甚為簡捷恨東梓罹災跡本

漸罕誠之敢其書肆諱改刻且付贖見以便初學若

夫明治二年 王政維新與羽蛇美分國新定史烈

耀千古因及加一國以表章其績賢者其諒之

明治庚午初冬

大板誠之謹誌

諸國ノ名後ニ文字ヲ改ムル説

山背山城 山代同 關代同 山間同 大養徳大和 大倭同 山跡同
山戸同 吾餓保同 凡河内同 島津同 珠瀨同 歌斐同 相武同
無邪志武藏 阿波同 淡同 總同 淡海同 近淡海同 三野同
斐陀同 科野同 信農同 上野同 上毛同 下野同 下毛同
道與同 高志同 越前同 越中同 越後同 能等同 加我同 但波同
但波同 多連同 指葉同 指羽同 伯岐同 意岐同 於岐同
針間同 吉備同 備前同 備中同 備後同 阿岐同 周防同 宍戸同 穴門同
木 紀伊同 淡道同 淡路同 粟同 阿波同 伊余同 都佐同 土左同 筑志同
豊 豊前同 火 肥前同 頭間同 大角同 伊吉同 伊伎同 津嶋同

葛城國 大和郡上 德 國 久勢國 廬原國 師長國

知々夫國 武藏郡 須惠國 上野郡 馬表田國 望月郡 上海上國 海部郡 伊甚國 東海郡
武社國 武村郡 菊麻國 菊原郡 印波國 印波郡 下海上國 新治國 新治郡
筑波國 筑波郡 茨城國 茨城郡 仲久國 仲久郡 久自國 久自郡 高國 高郡
菊多國 菊多郡 阿尺國 阿尺郡 伊久國 伊久郡 浮田國 浮田郡
信夫國 信夫郡 白河國 白河郡 石背國 石背郡 羽羽國 羽羽郡 須羽國 須羽郡
三國國 三國郡 角鹿國 角鹿郡 江沼國 江沼郡 羽咋國 羽咋郡 伊頭國 伊頭郡
久比岐國 久比岐郡 二方國 二方郡 鴨國 鴨郡 明石國 明石郡 伊頭國 伊頭郡
上道國 上道郡 三野國 三野郡 下道國 下道郡 加夜國 加夜郡 品治國 品治郡
大嶋國 大嶋郡 都怒國 都怒郡 阿武國 阿武郡 熊野國 熊野郡 長國 長郡
久味國 久味郡 小市國 小市郡 怒麻國 怒麻郡 風速國 風速郡 波多國 波多郡
未多國 未多郡 宇佐國 宇佐郡 國前國 國前郡 比多國 比多郡
未羅國 未羅郡 阿蘇國 阿蘇郡 葦分國 葦分郡 天草國 天草郡 葛津國 葛津郡
許乃國 許乃郡 備垂國 備垂郡 信太國 信太郡

神武天皇平定寰宇圖

皇紀 伊弉諾伊弉册の二尊破取盧嶋を降臨さしつゝ先づ淡道洲と胞こして
大日本豊秋津洲と生じり。次は伊余乃二名の洲次は筑紫比洲次は隱伎の洲佐渡
の洲次は越の洲大洲次は吉備乃子洲と生じり。是を大八洲の号起るとか
や其のち天孫日向の高十穂の峯を降りし時武甕雷命經津主命の二神と
將軍とす。其從ひ奉らざると悉く平らぎ豊原中津國を治え知しめ
以是を。鵜鷄茅草不合の尊とす。皆日向の地を都しり。此尊か々ませし
後諸國一れ命と背く者多し。皇子神日本磐余彦火々出見の尊東征と
議りし。甲寅歲十月。舟師と率ひて速吸の門を至り。夫と久筑紫の荒狹
は着御あり。十二月。阿伎の國。埃の官をかい。翌卯の年。吉備の國。高嶋の
行官。移り。比ひ兵船と修り。大率乃策と催し。遂に浪速に入り。進んで河内
此ふ肩の津より。龍田に向ふ。敵長髓彦孔雀坂より防たたり。皇師。川よりす
り。紀の國より退き。九月。再び大倭へ行入り。川。荒田吉野とほく。我ひ。數度。及

同十二月。陸連日命。長髓彦と誅して。降順ら。是を。諸國平定と。此後
大倭國。播磨の都。小く。登極。ふ。人皇の。始。して。後。乃。世。神武天皇と。尊
号。奉。る。かり。

皇紀 神武天皇の都と大倭小定先結ひり。東國の王化を降せし
と。乃。せ。ま。今。ま。出。す。地。古。事。紀。風。土。記。同。抄。篇。國。造。を。記。ホ。小。く。書。せ。殘。篇
乃。一。書。の。況。相。模。の。地。な。て。親。征。有。り。多。し。其。は。比。古。比。時。の。誓。ひ
かれ。其。況。を。志。す。東。國。の。地。常。陸。と。り。陸。奥。と。つ。て。地。て。往。古。夫。の
地。也。と。ま。り。世。と。へ。て。冠。服。の。國。と。か。ま。り。世。は。當。り。小。接。は。る。此。地。元。來
美。地。と。ら。し。り。其。國。内。地。也。恐。南。せ。地。も。か。く。海。陸。相。接。り。將。帥。長。臣
て。入。べ。比。界。と。い。ふ。べ。既。神。代。は。康。嶋。香。取。の。武。神。此。地。な。て。平。定。り。り
ある。に。其。邊。に。昔。を。り。鎮。先。空。す。是。國。民。そ。乃。德。と。崇。め。一。ツ。の。地。あり。夫。が
後。世。の。乱。し。時。貢。の。道。と。朝。廷。と。と。あ。り。つ。つ。夫。城。あり。と。是。也。唐。土。小。此
例。多。し。夏。商。の。時。南。は。遠。く。文。野。と。封。城。たり。一。層。は。七。を。建。國。と。は。せ。し。類。世。に

神武天皇立家圖

近江國竹生嶋峰起去
孝靈天皇廿五年湖水遶所
此嶋頭出也然此此時地
始て現し湖水は是より有之
と云ふ皇代活き出し後入
の主人をまはこれ用ひす



韓

今此島を...

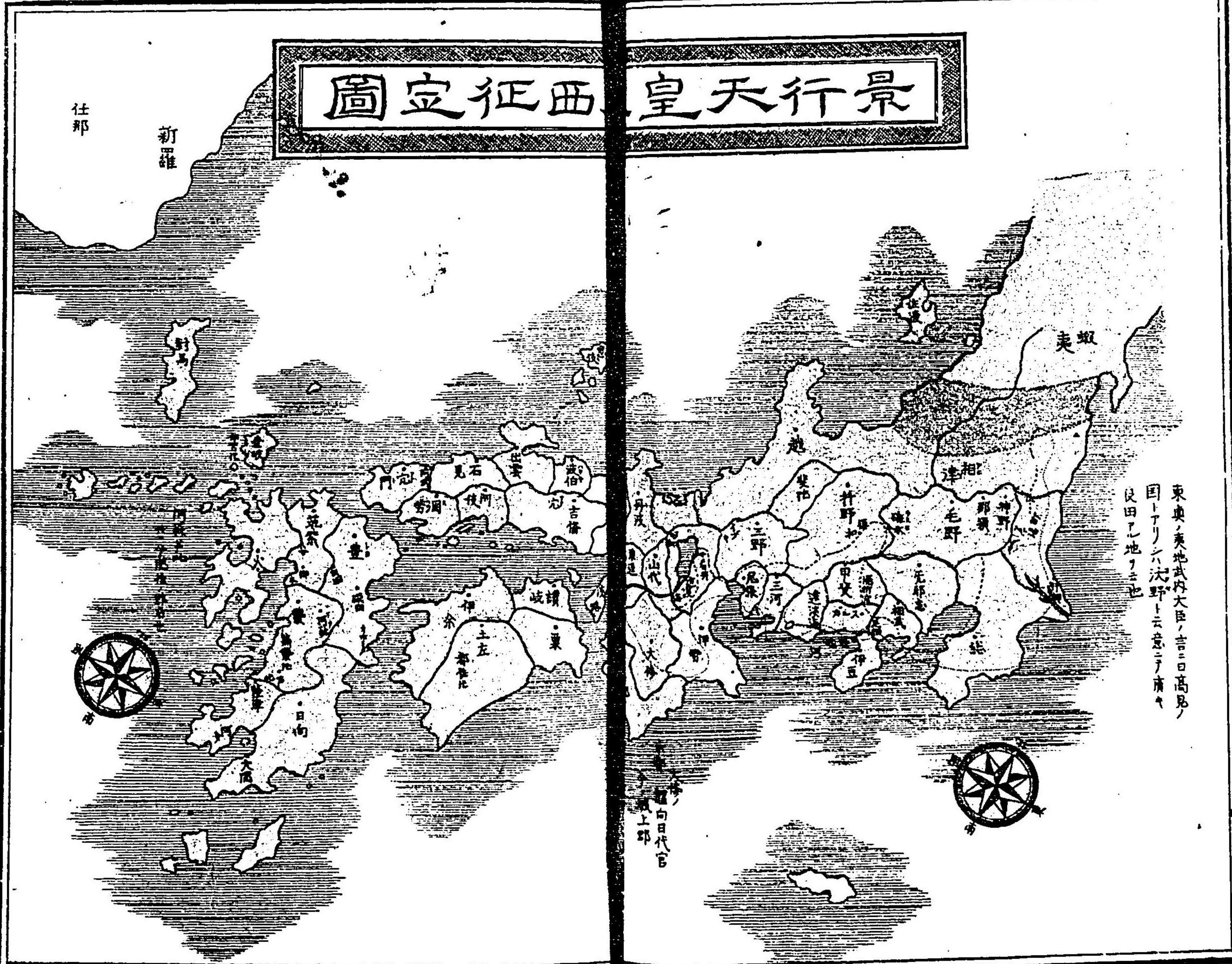
景行天皇東西征定之圖

抑神武天皇の御時より九代まで崇神天皇十年のちろ。逸夫王化を由せり。大彦の命と北陸をせり。武渟別命と東海へ吉備津の命を西の道。丹波道主比命と丹波をせり。征伐せしむ。翌年右四道の將軍各皆討平らげ。厚陣を。同六十五年より王任那國より始く貢と奉る。は國百濟の東南より。對馬に近し。一書に意富加羅國の王子木朝とあり。則ち大駕洛國に。仕那の一名あり。此伐厚帆乃。新羅國より兵船と出。我朝よりの賜物と。うづ。のち二國争ひ起るといふ。景行天皇皇位と。他々。十二年。筑紫の熊襲叛。此乃。親征せり。明年是と平らげ。行官小おま。て。筑紫と治先十九年。還幸らる。廿五年熊襲又叛き。皇子小碓の命と。討伐せしむ。同四十年東夷乱と。今度も日本武比尊征伐。伊勢を。東國。東向ひ。支卷く臣伏す。夫より。相模又。海。東征す。美成竹の水門。て。神武の神武。て。

述り小平定ある。尊是より帝陸と。甲川酒折の官。倍濃越の國。倍濃と。今。吉備津彦と。越。尊は。倍濃より美濃。吉備津彦。共。尾張。山。後。能。崩。帝。同五十二年。征略。翌年。此後 成務天皇ノ御時國造ヲ賜ヒシ國ハ國造木紀ニ出タリ此時始メテ立シ國多カ

ルベキナドモ元ヨリ有シ國工爰ニテ國造ヲ賜ルモアルベシ因テ前畵ニセザル國名ノミ記ス
伊賀國 嶋津 廣原 師長 須志 馬来由 海上 伊志 武社 菟麻 阿波
新治 筑波 仲久自 高 額田 阿尺 伊久 深羽 浮田 倍夫
白河 石背 石城 三國 角麻 能等 伊弥頭 但遲馬 二方
柏葉 伯岐 針間 鴨 吉備 大島 長 志 志 國前 比
天草 葛津立

景行天皇西征定圖



東奥、美地武内大臣ノ言ニ曰高皇ノ
國トアリハ大野ト云意テ南々
反田ト地ヲ云也

白日代官
上郡

神功皇后攝政元年征韓之圖

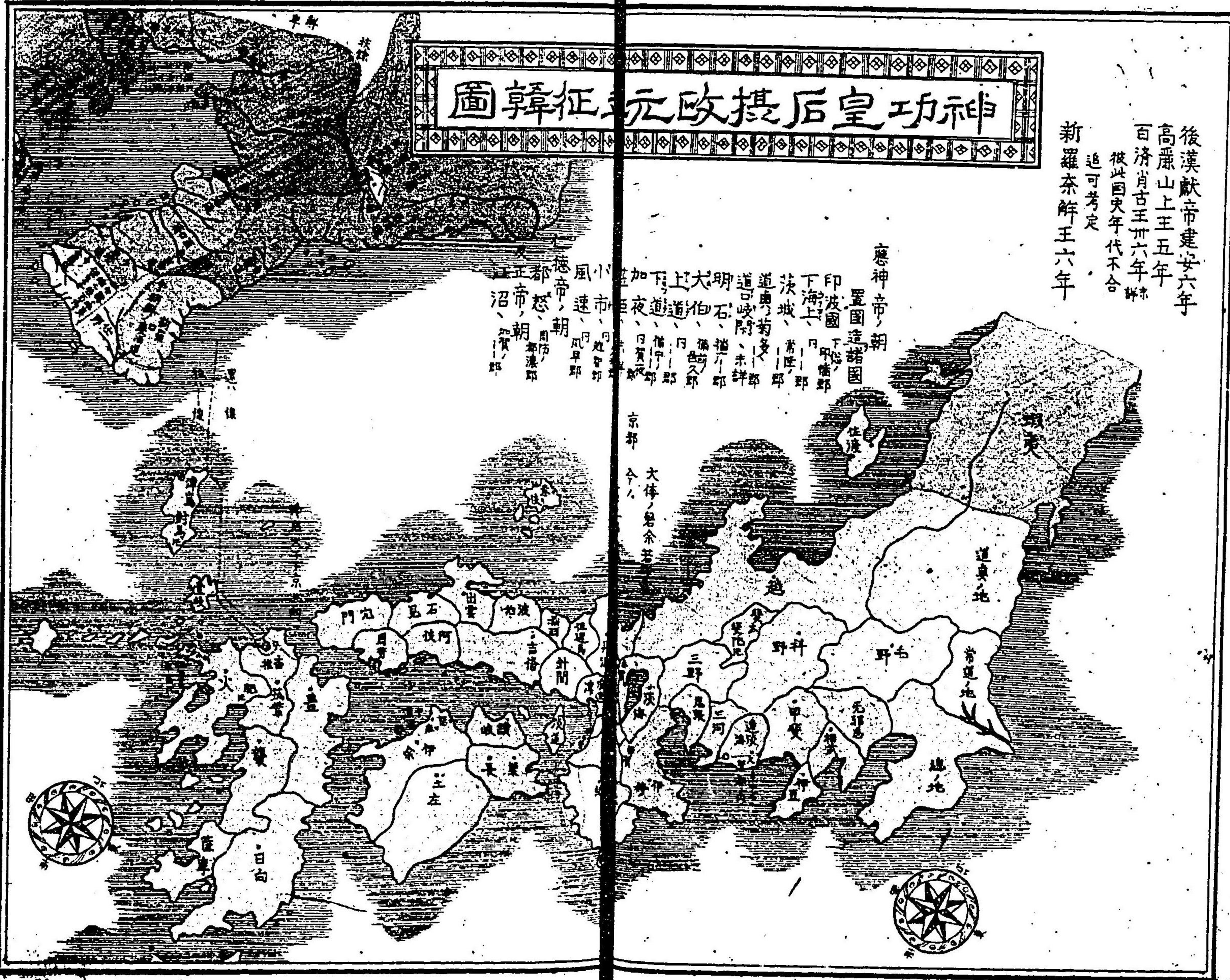
成務天皇と申すは景行天皇の皇子小碓彥彥火瓊杵尊と傳へたり。仲哀天皇の御事也。此帝乃三年。諸國伐逆討らして穴門此國給豊浦の官におす。同八年。熊襲又叛たれど。親征しつゝ同九年。其陣中に於て崩し給ふ。一説は。熊襲の賊射奉りとも云り。神功皇后是と云くは。武内大臣と譏り。熊襲を伐らげ給ふ。初く熊襲乃世に乱れ給ふ。新羅を王助かせし故也。是よりして皇后天皇の患を永く殺はん為。大海乃危険と云き。新羅を征伐しつゝ。同十月。和珥の津より。御船と出り給ふ。大風颯と吹く。被國に打入給ひし。新羅王カサテ降参し。高麗百濟を是とす。て哀恐る。皇后共と久しく海外より免れ給はず。歳貢と約し。其王子を娶と。凱陣より。今に於て。吳國より。我朝と云く萬國中の強國と云ふも。神功の英武。權輿する所也。作ぐを。崇むべし。

周の武王殷を克て。箕子と朝鮮を封ず。此時都を平壤に定む。夫より四十一代の孫箕準に至りて。燕人衛滿は國を奪はれ。南に遁る。是馬韓の祖なりといふ。衛滿の孫の右渠乃時。漢の武帝その地を攻めり。玄菟樂浪真番臨屯の四郡とす。三韓は世に老る。百濟馬韓弁韓辰韓也。百濟ハ韓地を起りて。馬韓と併す。新羅任那いづれも百濟の附庸なり。高麗は馬韓もと。鞍鞆の地を據り。海に盛んし。扶餘と破り。扶沮伐城。西に遼東を寇し。南を百濟を侵す。其國最に大なり。後漢の士人公孫度遼東小振りて。威名華夷に及び。此時高麗恐れ。和親を乞ひ。百濟も韓と結べり。新羅は故に辰韓此地也。奸計多く。その貪暴ははりのり。ゆへ本朝の征伐を受く也。

諸道の小國前の圖は出さず。と云ふ書す。大さかれども。其間の沿革と國史の名かりし。足柄の坂より東の小國と省き。八國に定め給ひし。也。此國より後。應神仁德二帝の朝。國造を賜ひし。國の名。圖の外に書らざり。

神功皇后改元征韓圖

後漢獻帝建安六年
 高麗山上王五年
 百濟肖古王卅六年
 新羅奈解王六年
 彼此國史年代不合
 追可考定



征韓偉略

熊襲之叛也。雖世加征伐，反覆不平治。其云如何。元來有新羅之後援故也。新羅原為百濟屬國，背而通高麗，奸暴併近隣小國，貪心不輟，侵我邊海之地，漸昵熊襲，擾西州，遂至天子親征。帝之崩，軍中也。如日本紀一書所云：賊箭所為不可知。於是諸軍可瓦潰，幸為有。神后賢明，老臣良策，深秘大喪，得破襲部落，尚不撓其銳氣。帥軍征伐新羅，懷妊著甲之苦，風波矢石之難，共為國家，不思其勞。新羅王防禦術盡降于軍門，永誓貢調。高麗百濟傳聞之恐懼。

皇威遠振，異邦神后不久留軍海外，質子弟而凱陣矣。於今萬國指本朝，稱天下強國，不敢侵者，全推輿。神后武德焉。然唯以謂為獲財室，擊他邦大謬也。凡古史文外多義理，精讀可睹其時勢。夫熊襲對戰中，昇駕忽促之後，雖百計破賊，西州軍民未為安。若一朝生變，難再為平治。故建征韓大策，一可有復讎之事。一為蒼生，殲賊巢穴，一韓地，振旅示大威，定士民之心，國家安危。此一舉而匪貪兵之類，實可謂仁義之兵。古人論此，神后多異說，皆好奇之說，而無明證，不可信。頃以書圖說，與同志為仰崇，重識圖後云。

推古天皇二十六年之圖

是より先、建寧五年、小漢亡び、蜀漢魏、呉の三國と分れ、遼東ハ公孫康卒して、其子公孫康、魏ヲ奉じて、塞外ヲ領す、其弟公孫淵、蜀ヨリ魏ノ為ニ滅せらる。百濟、新羅、木朝、百濟、高麗、新羅、百濟ノ時あり、常ニ百濟と戦フ。晋、魏ヨリ起りて三國亡び、おゞく一統セゞ。程かく大ニみだれ、五胡中國と争フ、其中ハ鮮卑、高麗と遼東とあり、高麗又百濟と侵ル。互ヒテ勝敗あり、然レ、此ニ魏ノ地ヨリ起リ、五胡ノ域と悉ク併す。晋、江東と保ち、遂ニ宋、魏ノ代ニ代ル。此ハ高麗強クして百濟と破リ、其王を害す。太子南ニ走リ、我朝ノ兵力と決めて、其津、都ニ宋ハ國と南、齊ヲ傳へ、齊、宋ニ謀リ、比、百濟又強ク、此以前ノ北魏も東西ニ分れ、其後、東魏ハ北齊、西魏ハ小周と名ル。此戦ノ際、高麗ハ遼東と奪ヒ、百濟ハ遼西と取ると云リ、百濟王高麗と代りて平壤と臨、高麗と復す。此時、渠亡び、陳代ル。高麗百濟と戦イヤす。百濟、平壤と漢城と奪フ、新羅、漢城と略シ、任那と破す。木朝も任那の再興と百濟へ命ザル。魏ノ代ニ代リ、是ハ魏ノ朝也。

故、推古天皇十六年の北齊、周亡び、隋ノ程なく、隋ハ周ヲ破して、皆一統セリ。推古天皇十五年の時、隋ノ煬帝位ニつき、大業と改元す。同十五年、小野妹子ヲ隋ニ送リ、同十九年、煬帝自ラ高麗を伐ル。其九年、又遼東を攻メ、克メ、す。されど高麗も守れんとバ、隋と合シ、大業十年より隋大ニ乱シ、五年、李淵、唐ノ代王と立、其明年隋ハろびて唐興ル。

推古天皇の朝、羽咋の國造ト賜ふ事あり。此朝よりして、推古天皇の朝迄、小園、内、外、郡、改リ、され、然れども常陸風土記の説にてハ、孝德帝の御時、坂東の小園と郡ヲ改リ、さうあり、其餘の園もさうあり、小や、郡も始ハ坪と書リ、其朝、小も、北方にてハ、唐の未ニ坪と云リ、小園の名も坪ハ、坪リ、今ハ坪と知リ、神宮記にも、孝德帝の朝、小園の名存せる事見ヘたり。

推古天皇二十六年圖

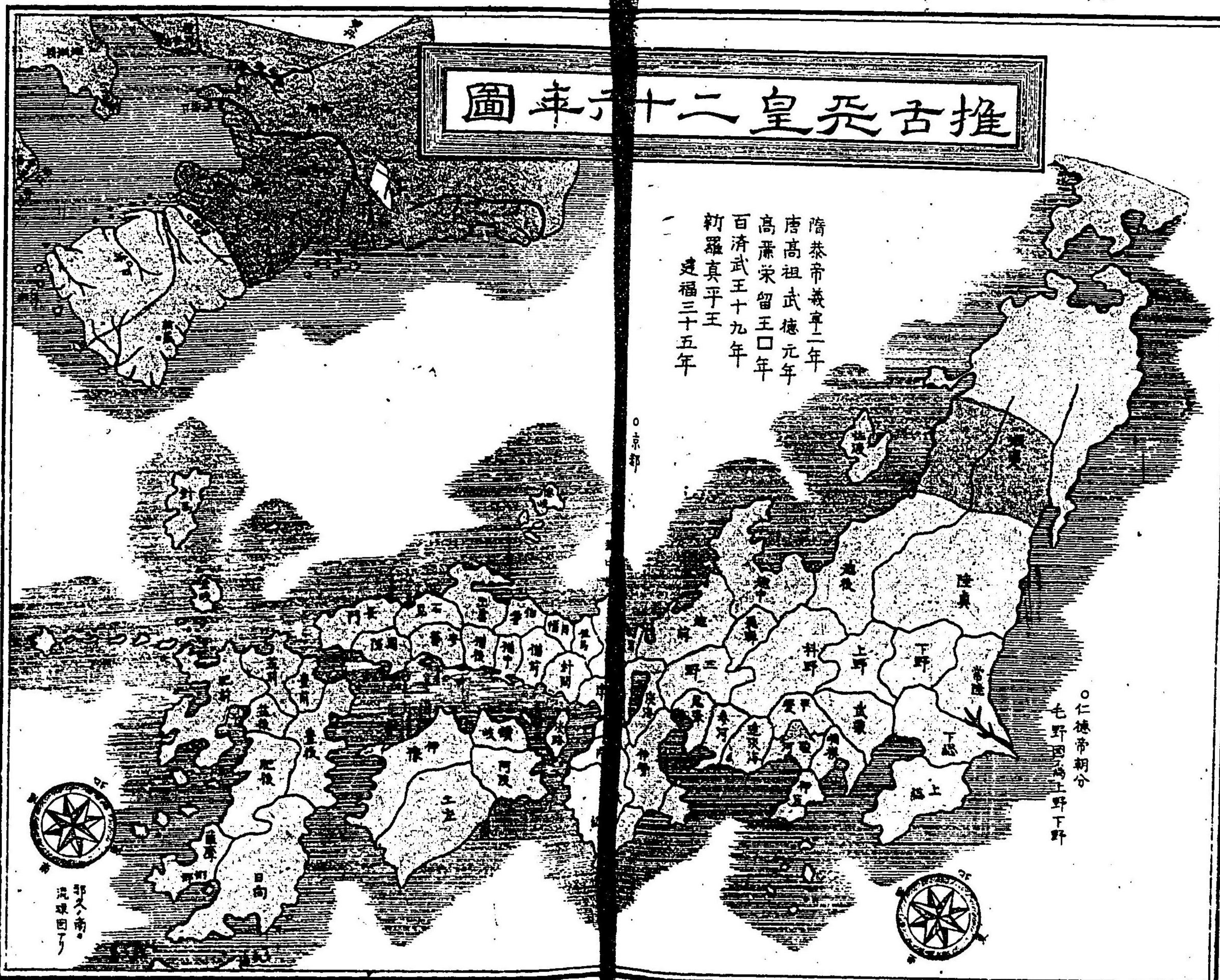
隋恭帝義寧元年
唐高祖武德元年
高麗榮留王□年
百濟武王十九年
新羅眞平王
建福三十五年

○京都

○仁德帝朝分
七野四爲上野下野



卯之南
辰之東



齊明天皇六年圖

齊明天皇四年越後の國司阿部の比良夫坂東と討つ。鈿田郡津代郡津輕と平治す。各郡領と進みく度島の地夫より南鎮押せんと伐同五年再び征して。後方羊蹄と攻所と。郡領と進みく軍兵此比津輕ホ乃諸郡越後の管する所とるく。後天平の頃坂東再乱のとき此政所郡領とも廢弁する小玉也

是より先唐の貞觀十九年太宗親ら高麗を伐く。遼東を攻られ。翌年高麗降とを。同北一年唐の李勣又高麗を伐。此以前高麗百濟と新羅と攻む。永徽五年高麗より契丹國と伐大敗してゆ。其明年高麗又新羅と攻む。新羅救ひと唐小請ふ。あつて於て蘇定方と將として。高麗の新城と破る。顯慶五年蘇定方新羅と共に百濟の都と陥し。義慈王唐に降りて百濟を去る

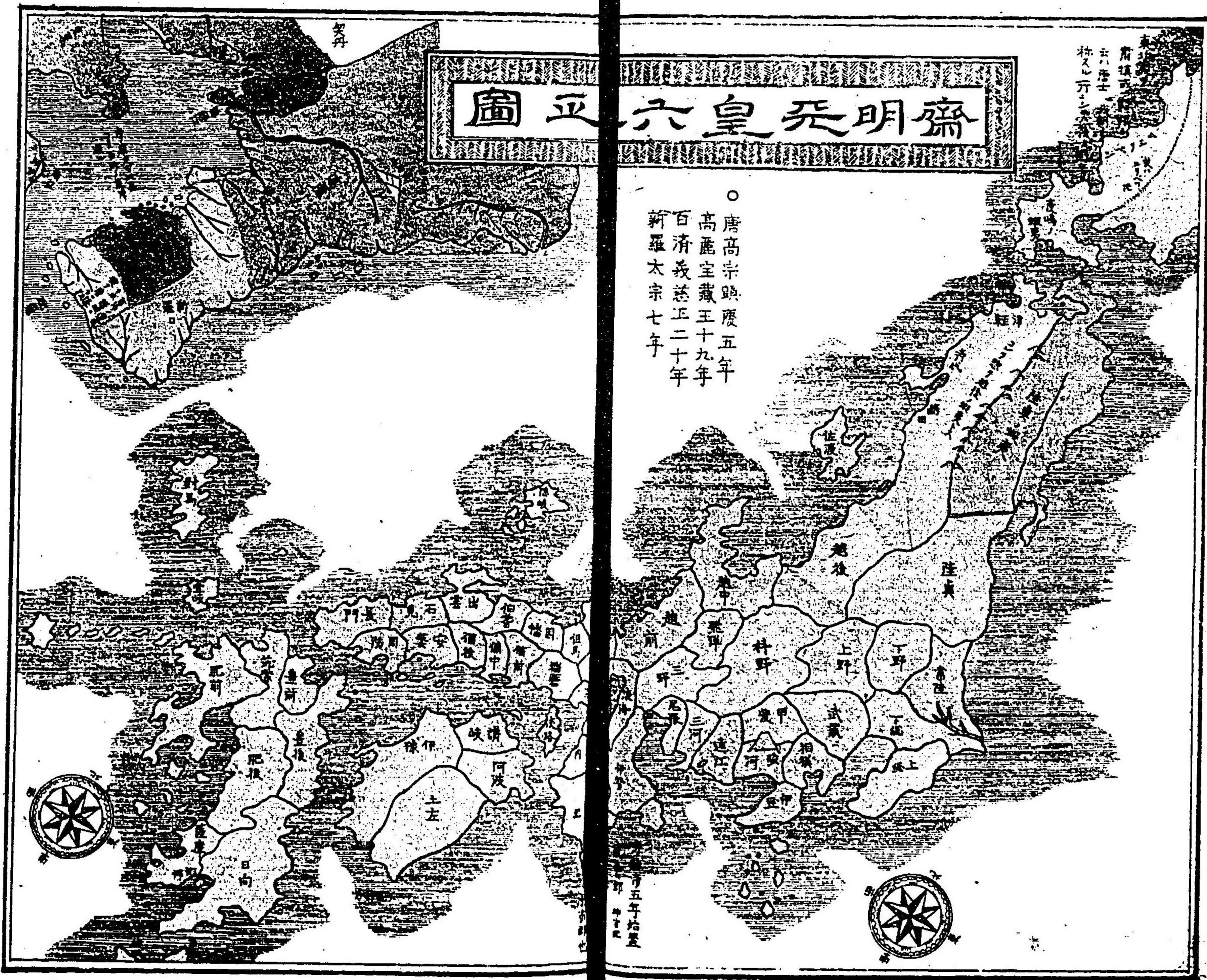
其翌年唐の武宗七年百濟の福信と志義の兵と集めて。新羅と破る。軍成ふくは振ふ。遂に王都と復し。本朝は贊より。王子遣璋と迎ふ。天皇拔兵と出したまふ。抗て筑紫朝倉の行官の御幸り。福信此比唐の川仁朝と討取す。同七月蘇定方高麗の都と

圍む。同月。天皇倭に崩す。太子蘇我軍國と監以。天智天皇元年三月高麗へ援兵と遣はす。同二年其共新羅の二城と拔く。此時百濟王遣璋と信とて。福信と誅する。かへ氏心と失ひ。唐のたり。其都と陥され。百濟再び亡ぶ。同八年高麗も唐に滅せらる。新羅は其後唐の安祿山に乱れ。東に鳴鶴江より南の地と悉く併せたり

孝德帝朝分陸奥多珂國為多珂石城二郡。到常陸茨城國置行方郡。茨城後為郡。白雉四年分筑波茨城二郡為信太郡。同朝以相模國足柄。击坂以東分八國。常陸居其一。先是諸縣唯祇新治筑波茨城郡賀不慈多賀國。總不言常陸云云。常陸其記。同朝傳伊賀國。錄於伊賀國。田原本記

圖亞六皇天明齋

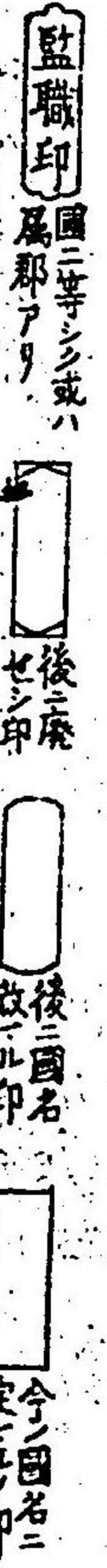
○ 唐高宗顯慶五年
高麗寶藏王十九年
百濟義慈王二十年
新羅太宗七年



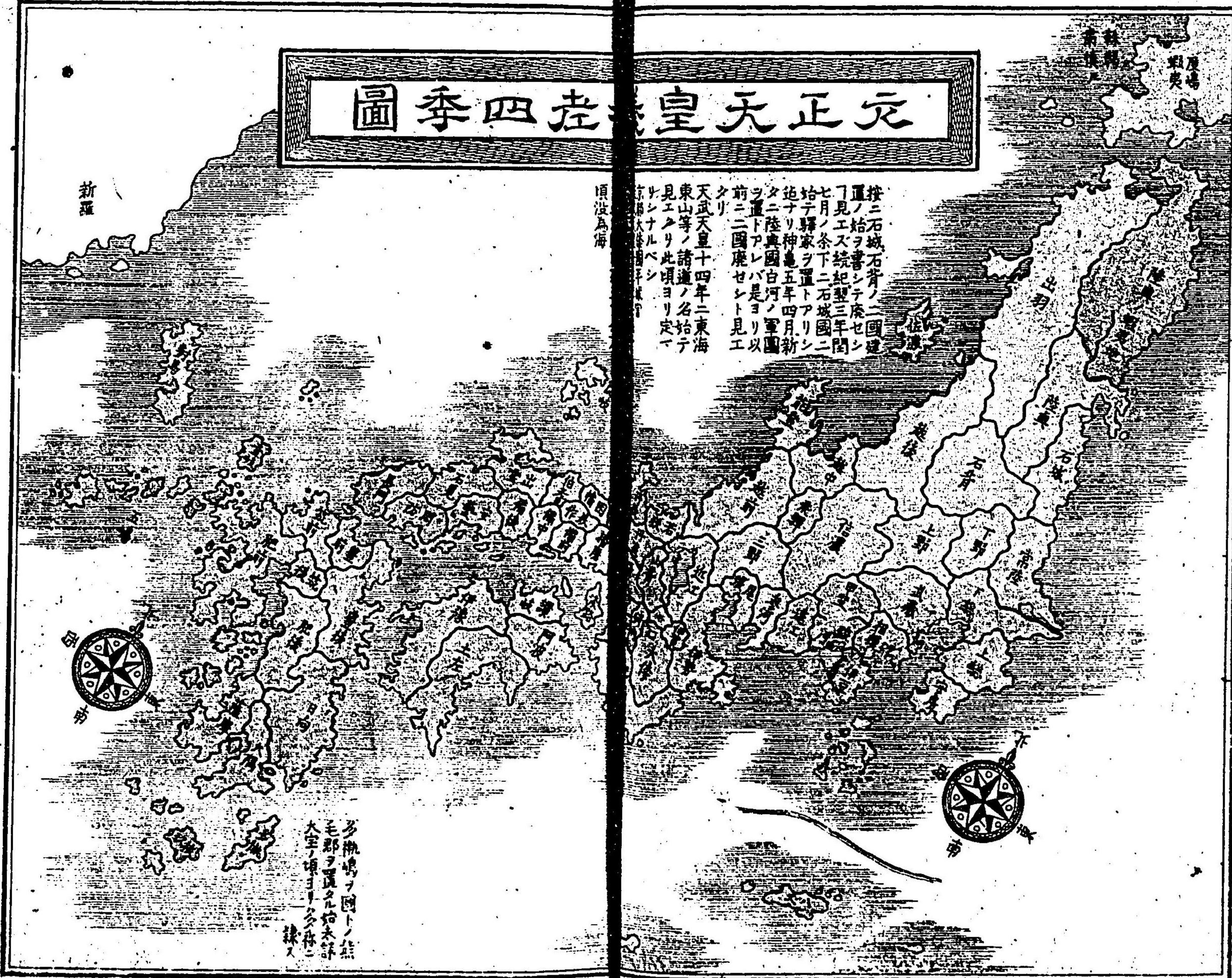
元正天皇養老四年圖

大正天皇養老四年圖 天武天皇白鳳九年七月小伊勢四郡をさして伊賀國を立駿河二郡を分て伊豆國を置倭姫世紀扶耒畧記大正二年三月越中四郡を分て越後小屬す和銅元年九月越後國小出羽郡を立同二年二月小遠江國長田郡を分て長上長下二郡とす同四年三月上野國并羅綠野片岡三郡の内を分て多胡郡を置同五年越後國を割て出羽國を置大正元年同十月陸奥國最上置賜二郡を割て出羽國小つゝむ同六年日向國肝坂贈於大隅始羅の四郡を割て大隅國を置丹波國五郡を割丹後國を置備前六郡を割て果作國を置同九月津の國河邊郡を割て能勢郡を置同十二月陸奥小丹取郡を置靈龜元年七月美濃國小原田郡を置同十月陸奥小香河間二郡を置同二年四月河内國大島日根和泉三郡を和泉監を置同五月武藏小高麗郡を置養老二年五月越前の羽咋能登瀛至珠洲四郡を割て能登國を建上総の國平群安房朝夷長扶四郡を割て安房國を立陸奥の石城標葉行方宇太巨理菊多四郡を割て石城國を建白河石脊會津安積信夫五郡をさして石脊國を立帝陸國多珂郡を割て菊田郡小いさ石城國小屬せしむ同三年四月志摩國塔志郡五郷を割て佐美郡を置今此郡

養老四年より八年の後神龜四年小至りて渤海國の王大武藝一りわて使を渡し高麗の舊好を修す此國高麗の故地小て今の瀋洲の城より後小唐の遼東をも併せたり此使來りてよと延喜の末まで貢舶とへを皆出羽越後の海路より來せし其國王大誼謀の代小つたりて契丹の大祖阿保機かよめ小亡不さる同四年渡嶋津輕の津司諸の君諸男等を誅朝國小つゝハハその風俗を觀せしむ同九月陸奥の蝦夷坂く同十一月河内の國堅上堅下二郡を大縣郡とす
津輕の地前高小ハ越後小屬せしが出羽國を建しより其屬郡とるりしと名ゆ
○國名の凡例



元正天皇陸奥四季圖



按三石城石背ノ二國
置ノ始ヲ書シテ三
七月ノ下ニ石城國ニ
始テ驛家ヲ置トアリ
迄ナリ神龜五年四月
タニ陸奥國古河ノ置
ラ置トアレハ是ヨリ
前ニ二國康セント見
タリ
天武天皇十四年ニ東海
東山等ノ諸道ノ名始
見エタリ此頃ヨリ定
シナルベシ
頃波島海

新羅

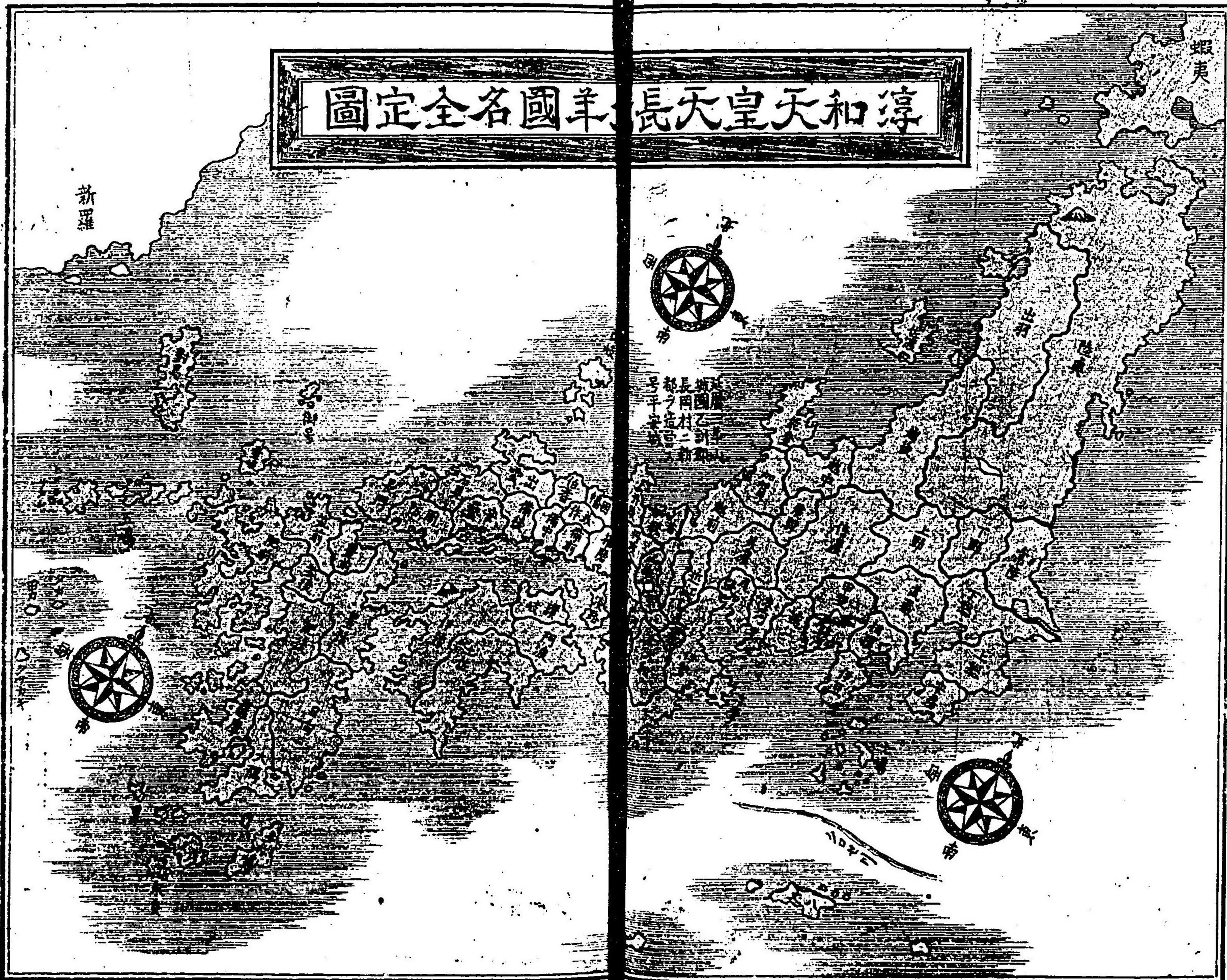
多摩川ノ國トシテ
毛郡ヲ置タリ給テ
大室ノ頃ヨリ多摩
川ノ

淳和天皇天長元年國名全定圖

養老五年四月佐渡の稚太郡を分て賀茂羽茂二郡を置備前の邑久赤坂の二郡を分て藤原郡を置周防の熊毛郡を分て玖珂郡を置備後の安那郡を分て深津郡を置同六月信濃國を割て諏方國を立同十月陸奥の赤田郡を割て新田郡を置同六年遠江の佐益郡を分て山名郡を置養老の末より秀野監を置神龜三年十月備前の藤原郡を藤原郡と改む天平二年正月陸奥小田原郡を置今之同三年諏方國を廢して信濃國小井を同五年多岐嶋熊毛郡大領小多岐嶋國造の姓をぬふ同十二月出羽小井勝郡を置同年大倭國を大養徳國と改む同十二年八月和泉監を河内小井を置同十三年十二月安房國を上総小井を能登を越中同十五年二月佐渡を越後小井を同十二月をいめて筑紫小鎮西府を置同十九年三月大養徳をむとのとく大倭國とす天平勝室四年又佐渡國を置同七年大隅小井郡を置天平字元年五月能登安房和泉の國を再建同九年のころ大倭を改む大和國同七年同八月武藏小新羅郡を置今之神龜養老五年十二月陸奥小東原郡を置同二年六月

備前の藤原郡を和氣郡とす同十月河内國を河内國とす同四年八月又河内國を備前國とす同二年十月武藏を東海道小入山道同十二月筑前國を侍て太宰府小屬すのち筑前國を立しこと延暦四年陸奥小多賀階上二郡を置同七年六月備前小盤梨郡を立同十三年三月攝津職を改む攝津國とす天平字六年の攝津小攝津郡同十一月山脊を改め山城國とす同十六年九月筑前を廢し又大宰府小隸を同十八年三月陸奥國富田郡を色麻郡小井七瀬島郡を新田郡小併せ登米郡を小田郡小併せ今新田小田とも書す同二十三年十一月出羽國秋田城を侍て郡とす大同元年七月紀伊國安提郡を在田郡とす同三年五月再ひ筑前國を建同四年九月小井球國神野郡を新居郡と改む弘仁二年正月陸奥國小和蘇真斯波三郡を置く同十四年二月越前の江沼加賀二郡を割て加賀國を建江沼郡を置けて能登郡を置加賀郡を割て石川郡とす天長元年九月多岐嶋國を侍て大隅小隸を置小於て國名永く全定して六十六ヶ國小定よりぬ

淳和天皇長羊國名全定圖



新羅

蝦夷

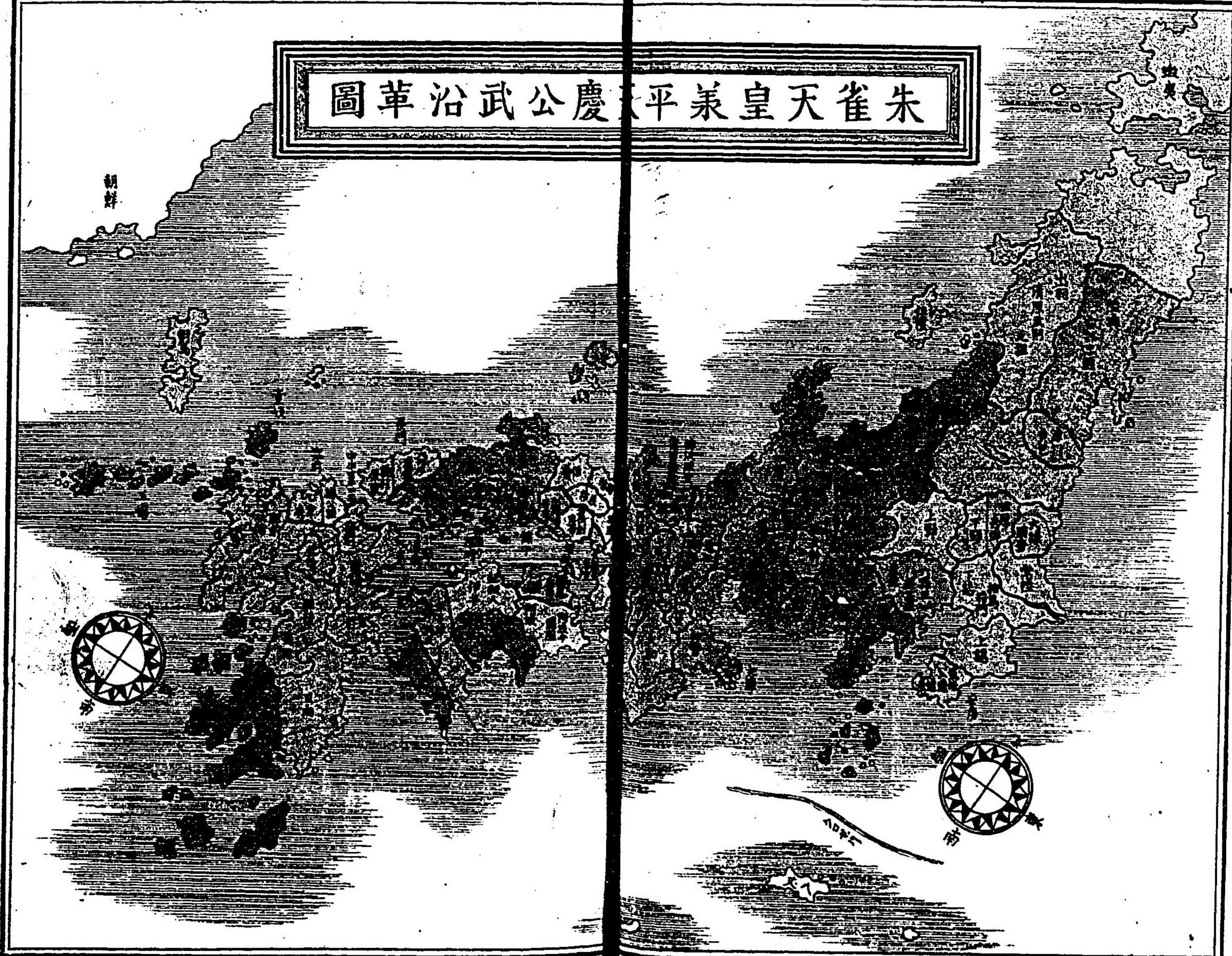
長門國
門司
下關
萩
長門

承平天慶公武治草之圖

清和天皇第六の皇子貞純親王の御子經基王小始て源の姓を賜ふは清和源氏の太祖あり此王文武の道小賢く在けり是より武臣とありあひて勇と朝廷の御守護なりよの頃ハ武藏守小任武藏國箕田小在城仁政を播みふ小より世以て尊崇奉る○爰小桓武天皇の曾孫前將軍良將の次男相馬將門下総の國小在て謀反を發援嶋郡小館を構へ大内裏小比をかて軍議評定の折より常陸大掾國香の三男平の兼任來會を始終一言も発せじ飯も將門を怪む彼二心あり是を緩ふるさバ大事必ことより漏れん則兵を發して常陸小出張を國香子息郎俊を集め防戦力を盡そといへとも衆寡敵せじ國香竟小矢小中して死を因て同國土浦の城没落國中將門小屬を○將門威勢小乘下て武藏へ攻入箕田を圍む經基王防禦を然きとも渠が威勢破竹の如くなきバその銳氣を避て退城あり浴へ降りぬ小將門いよく逆威を震ひ下野を累し安房上総を伐關東大畧彼が子小屬を○國香の嫡男上平太貞盛折節在

京より父が最期を聞關東へ下向藤原の秀郷と力を戮して將門を攻む將門の軍每度利を失ひ終小辛嶋小將門誅小伏を○伊豫掾純友將門と心を合せ南海東海一時小蜂起を紀淑人伊豫守小任下向を純友竟小九州小走り太宰府を攻拔き九國大半彼小屬を○小於て朝廷右近衛少將小野好古散位武源經基王を兩大將とる小楠子左馬助滿仲を始め其勢五萬餘騎西海小進發あり九及所々小合戦あり竟小純友より引退さけきともその往方を知らむかくて後純友再び軍勢を集め筑前博多の津へち寄る猛威盛なきバその注進御の齒を梳か如く故小朝廷また奉議平忠文を征西將軍として天慶四年四月廿八日西州へ進発あり横津國渡邊小て勢を揃へ○かくて好古經基の兩將大小軍勢を募り再び純友を追崩し純友大小戦員て本國へ歸ること小同國の住人橋の遠保謀を以て純友を生捕し小於て東國西國の動乱一時小鎮を四海大平とハなきり

朱雀天皇兼平慶公武沿革圖



朝鮮

出雲

新

保元平治闘争沿革圖

抑保元の擾乱、鳥羽上皇の寵妃美福門院の所生の、迹継帝を立んとして、崇徳帝の御位を
下し後す、後白河帝と立ふより、崇徳帝と情りゆひ、左府頼長と敵る然る小
上皇崩を、頼長等の隙に乗じ、諸國の軍兵を集む當今、是と聞し、召檢非違使平
基盛以下の諸士、小令して洛の口を、横衛とむら、頼長宇治より、間道と經り、
田中殿の諸士、小至る、孝誠教長以下の將士二十餘人來り、赴き、且六條の廷尉為兼と
召を為兼再三辭せれども、御許しあし、於て其子息頼賢頼仲為成、為朝為仲
を俱して田中殿小至る、帝もす、源義朝平清盛重盛以下の將士を召て禁門を圍
む、は為朝討策を獻せといへども、左府頼長用ひ、この事も、聞て、教朝、帝小
奏し、速く軍兵を整へ、田中殿の將、平清盛源頼政以下の諸將、俱に、発す、新院方大
小勇威と震ふといへども、竟に、戦屈して、敗き、上皇如意山に、幸し、頼長奔出、流失、
中て、勢を、於て為兼以下の諸將、多く、屠り、就き、刑せし、是為朝と伊豆の大島
小流す、因て天下、且く、靜謐、を、の、は、權中納言信賴、道隆八世の孫、り、と、を、

といへども、後白河の上皇の寵臣、さより、夫を、誇りて、威を、逞くす、遂に、迹継大将とを
上皇おとと許さん、と、千時少納言信西とを、拒む、は、於て、信賴大、おとを、怒り、既
小、謀反の志あり、かくて、平清盛、堀を、信西と、結び、成、推城あり、源義朝、心中、不平あり、信賴
その、容を、窺ひ、遂に、義朝と、黨して、共を、集む、千時平治元年十二月、清盛、嫡子、重盛を、將
て、熊野に、詣り、信賴その、虚を、計り、兵を、發して、上皇を、三條殿に、圍み、火を、燬て、官を、燒
上皇を、御書所、帝を、黒戸の、御所に、幽して、自ら、帝坐を、登り、軍兵を、指揮を、信西、天文、推歩
小、指し、豫て、その、資を知り、其身、安穩を、まよと、計りて、上皇の、官を、住き、官人を、以て
是と、奏し、直に、南都に、送り、信樂山、小く、猶養を、養生を、了、土中、に、埋まり、後、信賴、源の、光保を、
遣し、おとを、掘出して、首を、京師に、射し、平清盛、おとを、直に、引返り、謀を、以て、帝を、已
が、第六波羅に、迎奉、勅を受けて、信賴、義朝を、討す、思源、太極、平源、頼朝、よく、防禦す、と、
ども、軍忠、小、敗と、義朝、尾州に、走り、長田、忠致、討と、義平、唐小、就き、信賴も、唐れて、各、誅
小、伏を、朝朝、誅せらんと、せし、を、清盛の後母、禪尼の、請ひ、因て、伊豆に、編せし、れ、天下、平治
せり

保元平治治鬪草圖

後百二
條天皇

鮮朝



元暦元年公武治革園

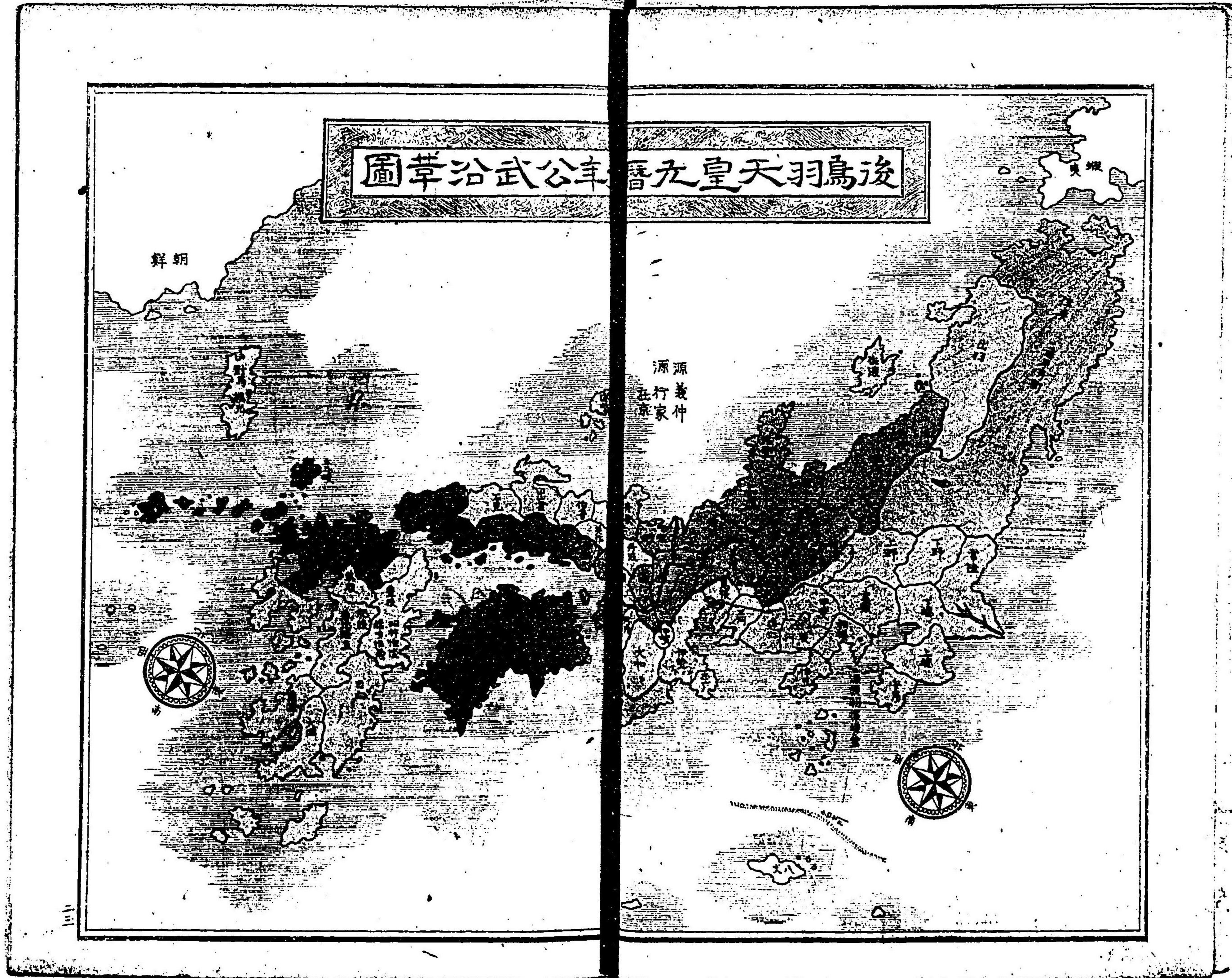
往年保元平治の乱より後平氏亦盛んにして相國入道淨海等兵權を取て天下
を掌中の物とし治承三年後白河法皇と鳥羽小幽関し執柄基房公と配海
く政勢と恣と源頼政おとを憤り高倉の宮に始理子とせりて諸國の源氏を令
旨と廻し平家と亡さんと謀りて遂に源氏討て大軍向ひしに官を始り
頼政父子敗死せり是よりつき諸國の源氏悉く討てべき風況ありしに源頼朝
共と伊豆小峯げ源義仲ハ信濃に起り近國響の如く悉く討て以て盛なりその外
南海西海の二道もこれ峰起す○和元年閏二月相國入道淨海薨す○源行家
尾州墨俣川小く平家と戦ひ敗す同八月陸奥守藤原秀衡は勃して頼朝と伐し
む秀衡命と受す○壽永元年我長茂と越後守と但し義仲と戦ひしむる小利あり
す○同二年平雅盛等十萬の兵と叩ひ義仲と加越の関り戦ひ大に敗して山北
義仲勝り兼して京都を向し行家も兵と會す平内府公盛 帝と供奉して西州に
走は豊後の諸方雅盛とと驚ひたれば讃岐に渡り行宮と八嶋に營む○義仲京

に入ると 後白河法皇再び政と懸け白河院と位に即けし義仲威と
にす○此時平家四國と攻虜し筑紫を原田種直荷携して漸く山陽道に至り
まゝ十餘州と送へしに義仲と得て標州より出張を是に依り翌は○元暦
元年義仲出陣せし所その跡は行家心算して兵と起ると途程中より引返
す通頼朝其弟範頼義経と將として義仲と伐しむ義仲防戦し栗津より敗死を
而將京に入し進んと平家と標州に伐しむ谷の城を陥す○文治元年平家引り
小破と終小八萬壇ノ浦の二戦は 帝と始り宗族悉く亡ぶ是より國家の大權
頼朝に歸せり其後孫退補伏しむし鎌倉と幕府と定め海内を指す○同五年
藤原泰衡と討つ典州平家○正治元年頼朝つゝ長子頼家後々北條時政執權
たり治世久しう久成せしと弟實朝公立は官三公に昇りて鶴岡別當公成
為す書せしる夫より後ハ政事皆北條義時時々の進退とせりぬ

後鳥羽天皇九年壬午公武浴草圖

鮮朝

源義仲
在源



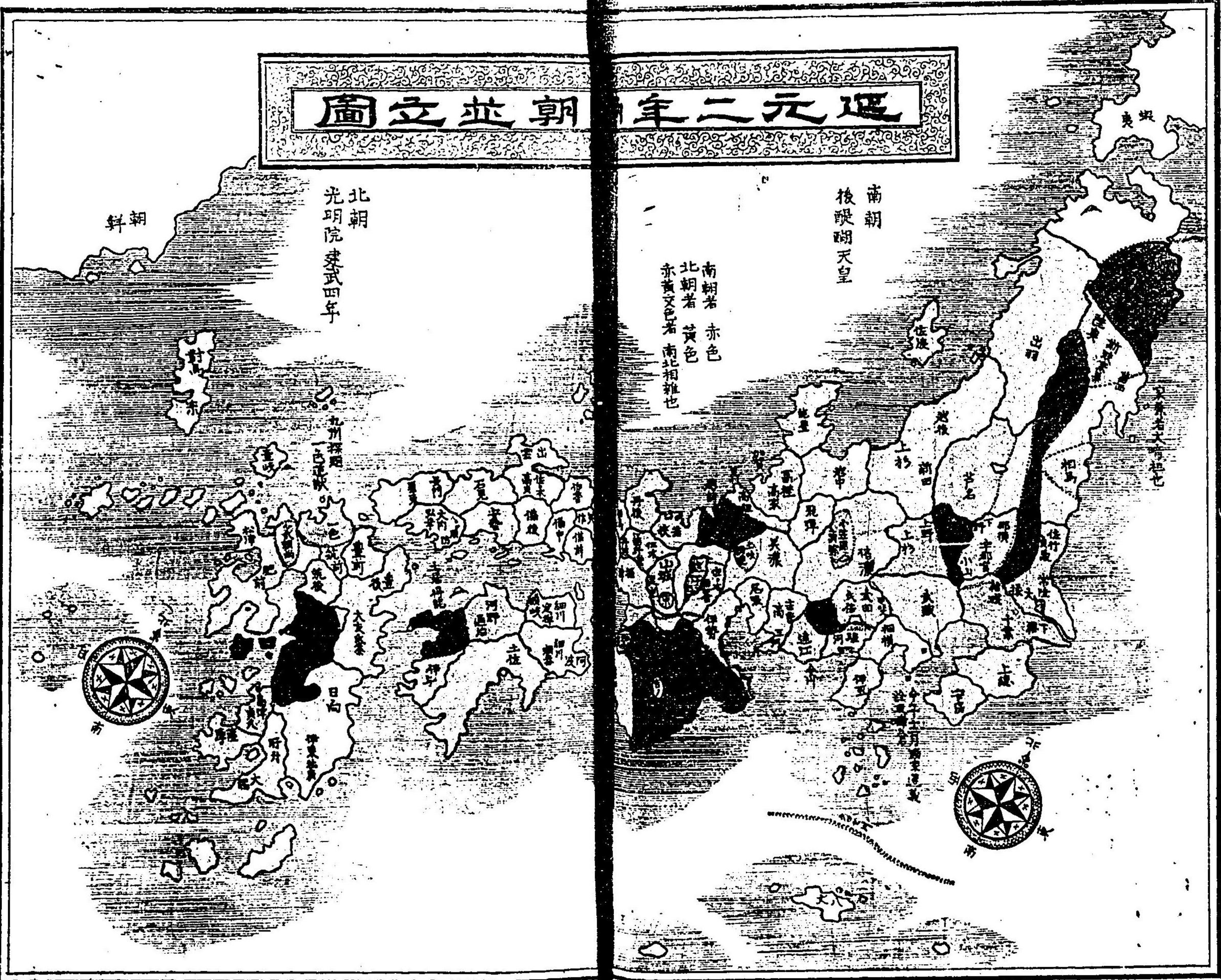
延元二年兩朝並立之圖

平義時朝威と怪しめければ 後鳥羽上皇還傳おきて鎌倉と頼みむと謀りやひ
し不どに義時弟の時房は長子恭時と侍として兩道より進發せしむ宮軍にちま
ち破る 三院東宮にれ迄耶は配流せしむる義時ハハく暴横とききめし恭時賢
明ふしと政勢正しく此在世のうちに士民安息せし夫より後ハ君臣相疑ひて兵
革やまず利さへ蒙古の寇襲ひあるまらざるも我甲士乃勇悍あるり 神靈の擁
護らるしとて賊船敗亡して國家の岨強びらと遠く兵朝の書小も記せ其後高
時の代は玉とく長壽園喜成福とせせとも制する事あるも 改道漸く妻へ遠埃
既し叛くものあり 後醍醐帝皇子護良親王と恢復と計たまひし程
く露れし皇子ハ逃れ隠る 帝蓋玉は籠りにまひしと六波羅禁ふとせ先落し
帝と隠岐に移し奉る河内の楠正成ひとり勅命とせし兵と奉る高時大軍とせ
ハ攻圍む此時大塔の宮の令旨に依りて諸國は義共起り 帝の是都と催す十種
中將忠政將帥と播磨の赤松圓心先鋒とく京都に向ふ足利尊氏も是に加はり

共六波羅と破る 〇關東にも新田義貞兵を上野に起したるも忽ち多勢となり
進んで鎌倉と責落し高時とより一族皆滅亡す 帝復位あり天下ふふ、八皇室
も版す然る小建武二年尊氏鎌倉を捨て上命に背きんれば義貞として征伐せし
むるも利ありずしてふら

延元元年東軍京師を運る 帝おれと逃く叡山に登る 同二月義貞等戦ひ克て京
師と復す尊氏鎮西を走り兵と集先大率して上落を勢ひ甚だし官軍敗績して正
成湊川よく戦死す 帝かきおて台嶺を造る 〇尊氏則光嚴院の皇子 皇太子と
立す建武の年号を用ひし此時皇師極盡比保ちしき小くり 和睦とて
帝都を還幸ししと尋く花山院を造る 義貞ハ一の官に玉を奉りて越前へ逃
く同十二月 帝脱走し吉野に入る 是より南北兩朝となり戦ひやむことなし

南北朝二元二年圖



鮮朝

北朝
光明院建武四年

南朝
後梁開天皇帝

南朝者 赤色
北朝者 黃色
亦黃又色者 南北相推也



元中九年南北盛衰之圖

延元三年北畠親房新田義貞朝臣沙界藤嶋にて各戦死すより北朝の兵勢すくなく強し尊氏三男基氏と以て關東の總督とす○延元元年尊氏殿一世子義詮將軍乃城をつく此間臣族の戦ひ南朝との争ひやむこせなり義詮在城久しつに共崎嗣義満いまと初稚なりといへども管領細川頼之柱く是を補佐して南討西伐の威父祖より起り肥後の菊池武朝も力屈し官位も降を乞南方の邦域日と進く應ずる此時かほ伊勢も北畠陸奥に伊達南部ありて推戴の忠と存まといへとも或は孤軍にしく對すは足らば或は路はより小しき勤王とかも事なりと云

今年元中五年足利氏大内義弘と以て南北和平の議と舉閣し龍のおとく皇統二流とたて替るべく即位すべきとありおしく事調ひなれば同閏十二月日帝京師より還幸あり北帝位を譲りたすひ三種の神器も渡したまふ依り北朝より太上天皇の尊号と奉らる元中二年より元中九年まで五十六年と経て南北一統に及べし間東小は総督基氏卒して後嗣子氏満進き其子満兼小傳ふ此間乃戦を別とあるしてありに略す

元中九年小して終りし事緒書に出入り然る小菊池武光の奉せし征西將軍懐良親王の後去の後恭成親王の皇子と被たすふ是とも八代の官又將軍の官とも稱せり元中の末武朝北朝に遷ひしは官より阿蘇大官司に合旨り夫は元中十年と記せり其詞は云く

九州再興事所被憑思食也此時分舉教

共者豊後日向兩國守護職并肥後國八

代莊河尻一跡三松一跡海東一跡并豊

田莊等事可被知行由依 征西大將軍

官仰執達如件

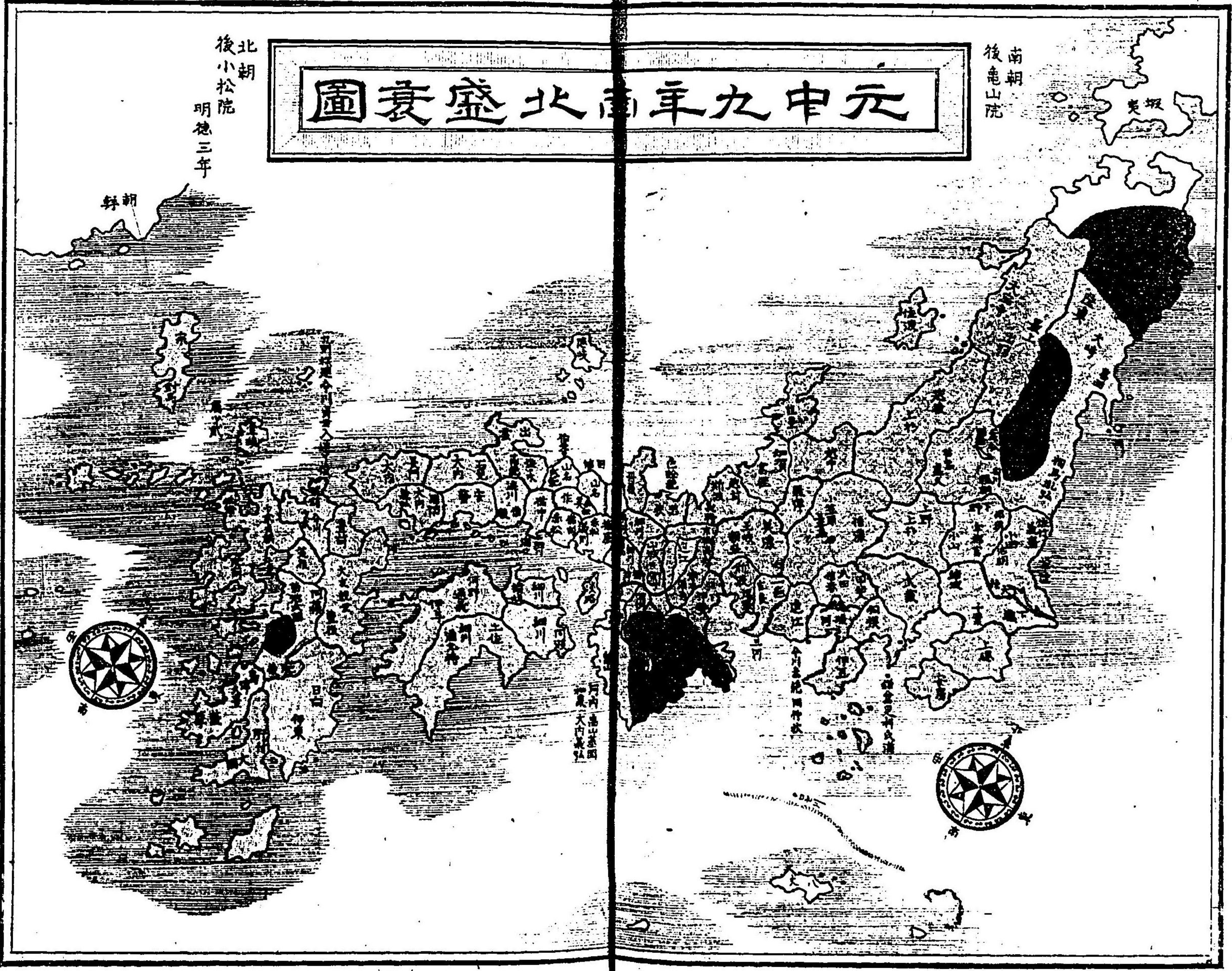
元中十年二月九日 左中將判

阿蘇大官司殿

元中九年南北盛衰圖

北朝
後小松院
明德三年

南朝
後龜山院

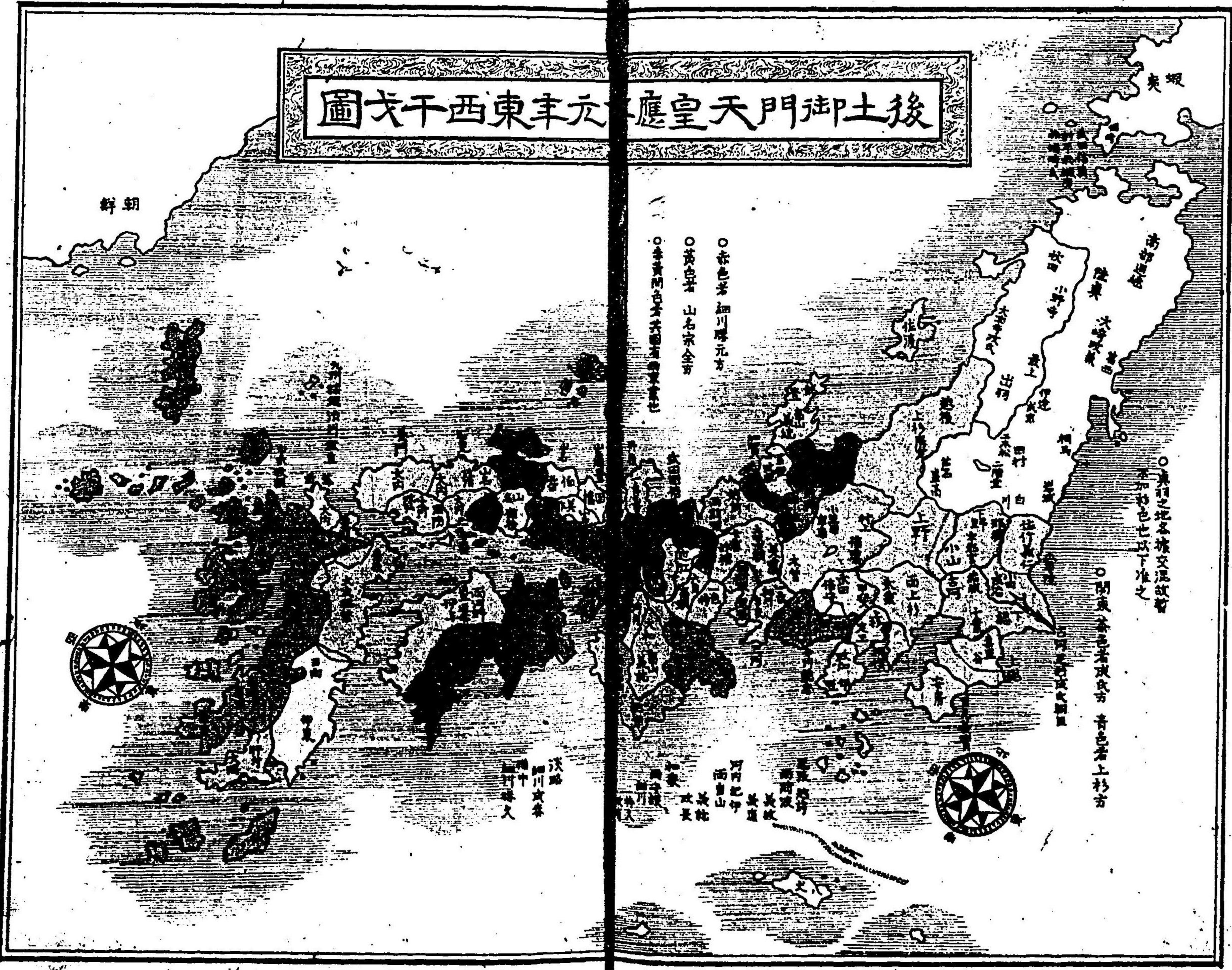


應仁元年東西干戈圖

應永元年義滿公將軍職を嫡子義持公にゆづり此時少一異ありと以へども共
草やはす共嗣義量將軍早世の後義教公義教公は義満の弟也を以て職を継ぐに實
利小して刑罰を専らにせしむるに臣庶六と眼を諸國に強乱起り關東の地
持氏持氏は義満の弟也執事上杉憲實と際り將軍もともり鎌倉を亡さん心有り故上杉と
助けて共に東國を下す○永享十一年持氏戦ひ敗れて自殺すを以て憲實と
關東の管領と以上杉ハ今度の弓削木意を出されバ不とかく逸世し第清方監
國を○嘉吉元年赤松滿祐滿祐は義満の弟也を以て播州に封じ京軍ふれと攻て虎す
純と小山名持重但馬より討入王滿祐と誅す其美として關國と典山義勝將
軍立て開かく夫世し弟義政公嗣ぐ○寶徳元年東國擾々からゆる小より龜田
の請に任せ政持氏の末子成氏と主督とし憲實の子憲忠と管領としと續めし
む厥后成氏父の仇ありとく憲忠と誅せしむるに關東に記る○長祿元年將軍兼
政知を總督とし上杉と共成氏と討しむ義政公温床よりして風雅を好むとい
へども政は志り衡量平からじ

今年細川勝元山名宗全を擁護し争ひ京師の東西に各十餘萬の兵を擁し拮据
戦ふれとせし憲仁の大乱といふ此軍數年を経て故小花洛も荒涼の地となりぬ
○赤松政則兵と違し山名と戦ひ播磨備前の舊領を復す○文明四年將軍の
職を世子義尚公に譲り後年東山に閑居る○同五年三月宗全病死す勝元も同八
月に逝去し長子政元其家を領せり山名黨降る者多し○同九年東西の軍數小
て京師を靜むるといへども諸國に別據しすく亂る○長享元年江洲の六角高頼將
軍自是と在す○關東にて西上杉と争ひて成氏方と東國三分す○同二年本願寺門徒加賀と打
從へ能登越中も既と併せむとす此戰に國を分政規亡す○延徳元年義尚公薨す
此よりして義隆卿義隆卿は義尚の弟也と持平とを○同二年政知伊豆の掎を以て逃す北條長氏押豆とせえ
るは○明應二年關山義隆卿と持平任世の關河内に出陣すはるは細川政元府よりして其等と
兼ふ義隆越中と進る政元義隆卿と立く邊國と討平く○同六年成氏古澤して逃し
嫡子政氏繼ぐ

後土御門天皇元東西南北圖



朝鮮

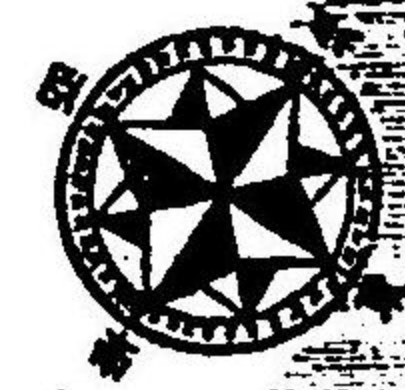
○赤色者細川隆元方
○黃色者山名宗全方
○赤黃間白者武田信玄方

○開成茶色者成良方
○青色者上杉方

淡路
細川次春
細川隆元

河内
山崎
長門
長門

○開成茶色者成良方
○青色者上杉方



永正六年兩管二川分争圖

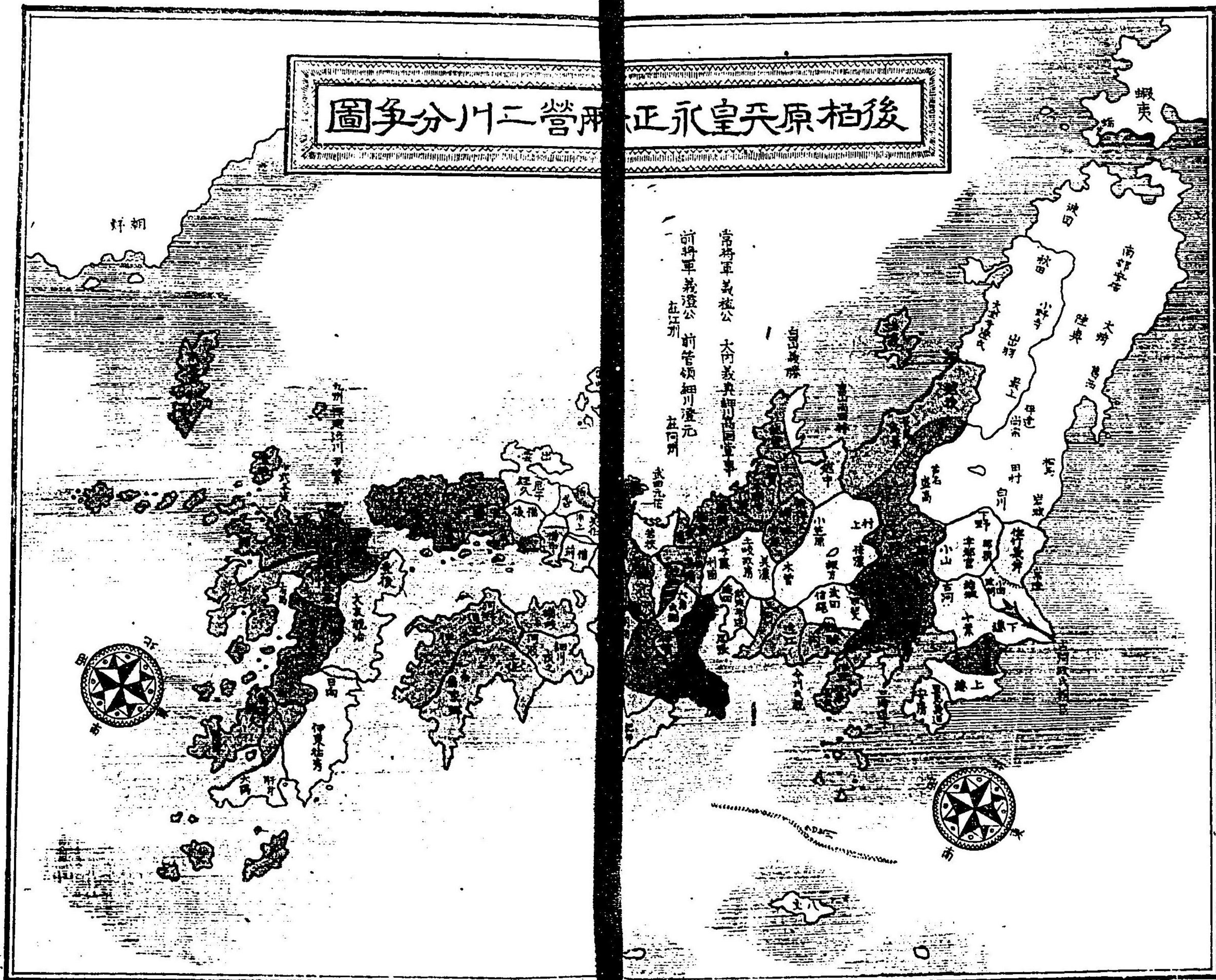
是より先き管領細川政元ハ九條政基公の公達後養子と遺之と名付く其後
又同氏成之化于澄元と養ひく子とシ○永正四年政元弟の小臣の爲小害せら
る香西元長と澄元と主事三好長輝ハ澄元と立く合戦す香西敗死し澄元も
自被る此乱小業トテ周防の大内義興前將軍義隆と誘ひ大軍と起し上洛を
細川高國と是は惠トられ義隆死す澄元京師と出奔を義隆卿入京より
てぬすび將軍に征し義興高國ホその政を掌る

今歳長尾爲景共主上杉房能と戦て敗後とす○同七年上杉頼實入
道可淳子越後ヲ於て爲景と合戦して敗死す養子憲房管領と成り○同十六年
北条早雲ハ平下長子氏綱綱々○同十七年三好長輝京と攻く克す時の兩子
と共に討る○出雲守織尼子經久漸く盛ん小して近國を併吞し大内と争戦す
○大永元年義隆高國と不和あり一々へ京とさる淡路に移る○同二年前將軍義隆高國
國前將軍義隆の嫡子義隆と争ひて將軍と成り○同二年前將軍義隆高國

さて是す○三好長基政澄元の子晴元とたて高國と合戦す高國ハ毎度利か
きさへ浦上村宗と頼む浦上美作備前守の勢と僅し攝州に出張して晴元三好と
戦ひて敗れ常恒村宗も死亡す長基大功あるより晴元の威三軍を
治す晴元も是を思て親しむ

土佐の國ハ元來細川家の管領すと云ゆかり
志らば近年兩細川の争ひ小て争の國攻
監するは法かきさより國人たすひは抱きた
うふ安藝木山等お淡して一條房家と備多
郡と晴元とせしる國中漸く静澄す

後柏原天皇永正兩營二川分爭圖

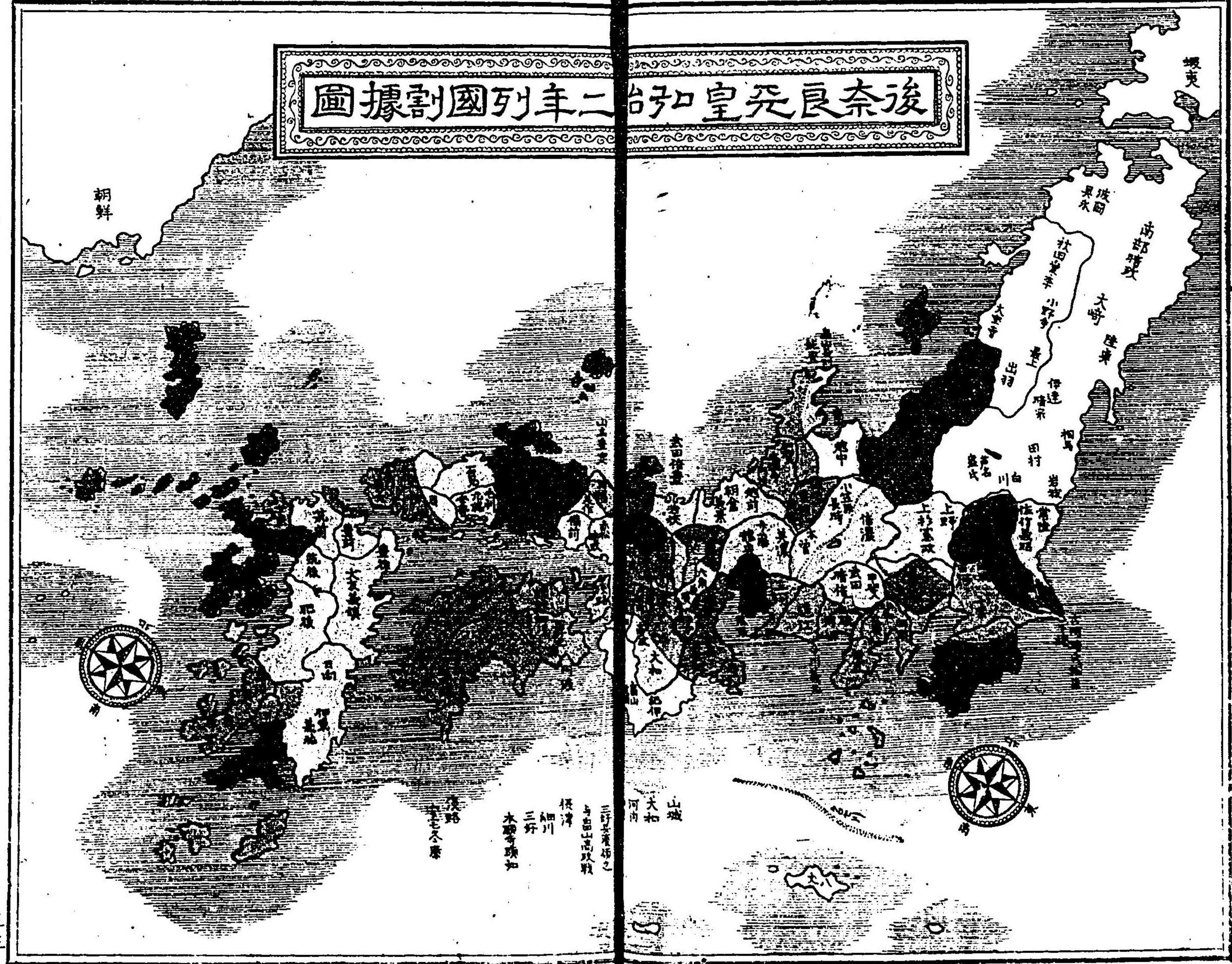


弘治二年列國割據圖

京都擾乱よつて將軍義晴公おれとて北へ江州朽木小守り○天文元年細川晴元三好長盛入道海雲と殺す○同七年北条氏綱氏康父子下總國府臺より足利義晴入道里見義光と合戦り北条勝利とて義晴明討死と是より氏綱の成武速迫を振ひて同十年逝去と氏康嗣いで愈々の地を廣む○同十一年長尾為景越中へ攻入て致死と○同十四年義晴公將軍職とて子義隆に譲る細川晴元三好長盛と戦ひ居敗し保老の六角義賢を援て使とす○同十六年海藤道三その守護土岐頼藝と逐く美濃とうはよ○同十九年前將軍義晴公江州にて薨す○同二十年陶晴賢其主大内隆景と戦ひ大友義統の弟義長と逐く主守を推しと怨とす○大友義統鎮肥後と定む○上杉憲政氏康と戦ひ有勢越後に至り長尾景虎を倚り後そのおきとす

花と伐ち取岩より渡りてさう大に敗して自殺す元就の嫡子隆元次男小早川隆景三男吉川元春とて勇略あり此一戦より辺國風を全みく降参す連ひく周防長門へせ入り大内義長防禦の策窮り自滅す毛利それより尼子晴久の地をとりそひくつを治む○同三年將軍義晴三好と和せり○同三年今川義元兵威強く駿遠参の軍と率ひて尾州とせむ織田信長ぬせき我ふ義元捕獲るにも討死す六もより信長の武名かくれおくつゆとよもふもの多し○毛利大友と豊前を對戦す○上杉景虎大率して北条と討つ上州より武州へ入る翌年の春小田原と攻む關東の諸侯これ等の奔令り送ひ兵勢友さうむかり

後奈良天皇御二台車列國割據圖



朝鮮

蝦夷

果波

水國

新羅

百濟

高麗

大野

陸奥

出羽

越前

加賀

富山

石川

福井

滋賀

京都

大阪

和歌山

奈良

大和

美濃

尾張

越中

加賀

本國

支那

朝鮮

日本

大和

出羽

越前

加賀

富山

石川

福井

滋賀

京都

大阪

和歌山

奈良

大和

三好

細川

三好

水野

大野

三好

細川

三好

水野

大野

三好

細川

三好

水野

大野

三好

細川

三好

水野

大野

三好

細川

三好

水野

大野

三好

細川

三好

水野

大野

三好

細川

三好

水野

大野

三好

細川

三好

水野

大野

永祿十一年足利更替圖

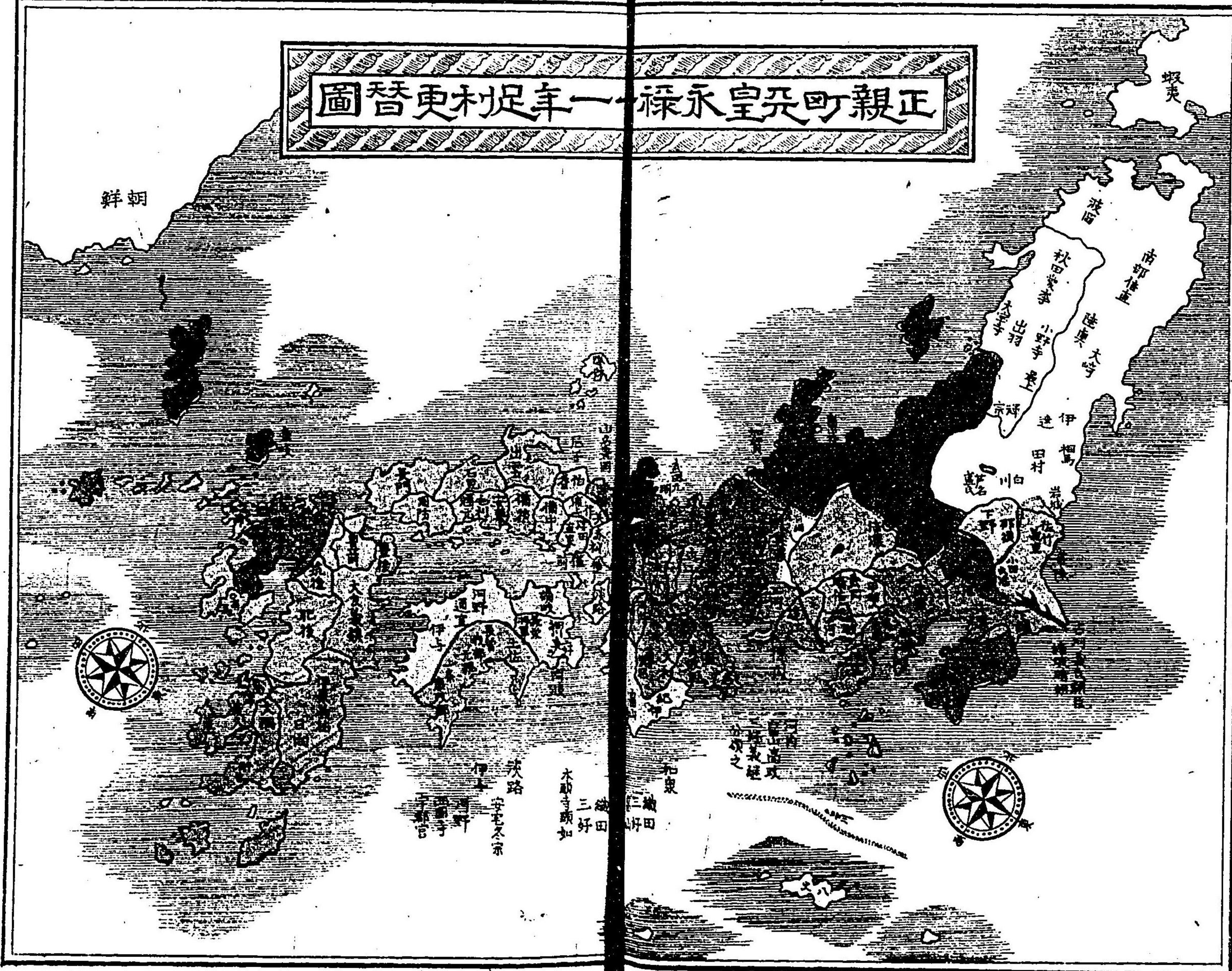
永祿七年三好長慶逝本一養子義隆其子の家をつぐ一族長孫三入
元と号し共推と加す一將軍義輝公と降りり○同八年三好が黨にたうし室
町の管攻攻む義輝公勇戦して自殺す家に於て三好が管阿波より義宗とむ
へて主と決す其子の弟 翌九年に至る將軍は但す 松永久秀ハ長慶存生比以權
勢ありしが三人衆と不和小して合戦し及ぶ河内の畠山高政と松永の助勢す
○尼子義久松永の毛利の圖とすは年漸つきく降参も○同十年三好義隆
その一族とえむれ松永り合作り

今年永祿乃春信長伊勢と伐○同りき秋信長義昭郎と謀りて
角承頼と攻く江南伐治す是と聞る三好亦退きて河攝の諸城とほもる信
長もむく京都入り兵とほらるる近郡とせむく義昭郎在洛乃後將軍
任す信長を同十月は輝國一又兵と伊勢り出して諸郡と畧す國司北島具教
和談りして信長の子息信雄と播磨の武田晴信入道相今川
氏と逐て駿河と取す 参州り約して遠江とわち治む○毛利元就ぬと

たひ豊筑一兵伐渡りく大友義統と對陣す其處とくハ尼子乃重臣山中
幸盛尼子勝久と定り立く主將とし出雲は起は又備前の宇喜多直家と備中
侵す

翌十二年勝久雲伯隠乃三州と復す ○同年の冬毛利豊前より坪陣 ○元龜
元年輝元 抗統の子 兵伐出して勝久を奪○宇喜多直家を美作の浦上宗景と
たうひーか毛利り降すく後兵とをふ○同二年元就逝去らるる輝元そ
の業と進く○同三年輝元雲伯ホ乃州郡と畧り勝久敗りく因幡
去る ○土佐の長曾我部元親漸く強くく近隣と併せ侵す

正親町天皇永祿一十年利更替圖



鮮朝

蝦夷



鐵路
伊予
宇治
三好
水取寺頭如
三好
三好

天正五年雄傑争衛之圖

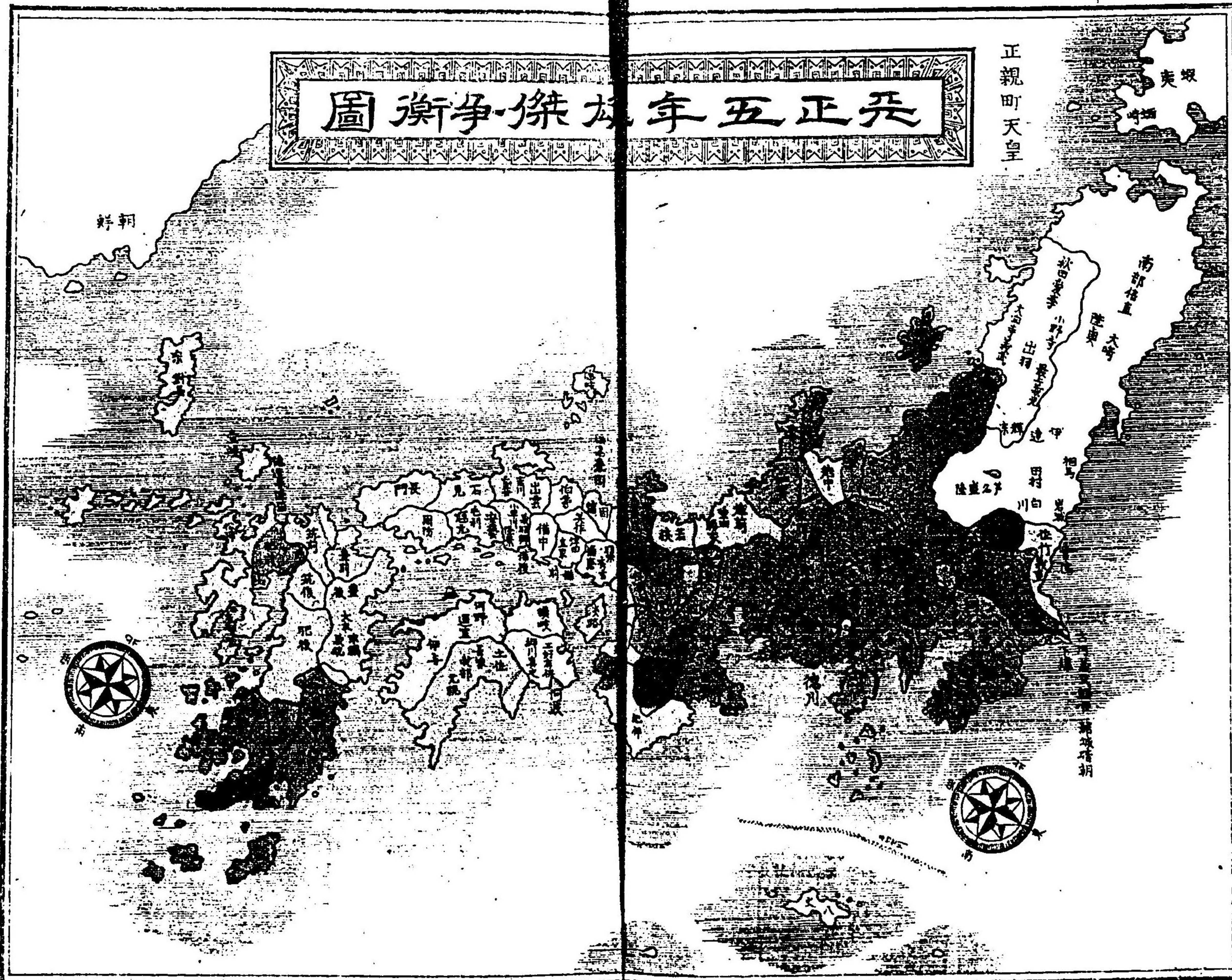
足利將軍義昭郡ハ信長ヲ權勢悉ク在ク其の制トシテ之ヲ御スルを欲ク信長天正元年石山寺ヲ城壘トシテ據ヘテ信長將士トシテ遣ハシ是ヲ責破ル義昭郡紀別ヲ退走ス同年四月武田信玄率リ勝頼其家トツク信長江北越前を伐ク朝倉義景淺井長政ト亡不モ吉川元春因幡伯耆ト攻ム両山名トモ毛利家は從ム○同年經虎入道謙信越中ヲ討入リ能登を取テ○同三年義昭郡中國ハハシリ毛利ト湯島元是ト京郡へ護送の兵ト權ハ○同四年信長濃州岐阜より江州安土の城ヲ移シ其後柴田勝家は命トシテ北國伐討ラシテ先羽柴秀吉トハシテ播州へはラシテ山陽ト略シテ

今歲天正五年宇喜多直家浦上宗景と合戦セ小早川隆景宇喜多とたもけく浦上と破リ美作を取テ是より後宇喜多直家ハハシテ秀吉ト通ズ○日向ハ伊東義祐薩摩の嶋津義久と數年地ト争ヒテ叛臣トシテ我ハ敗レ豊後ヲ去テ大友ト侍シ○同六年三月上杉謙信逝去シ養子景虎トシテ景勝トシテ

迷跡を以テそハ合戦ハおト武田勝頼加勢トシテ景虎自殺ス○信長郡細川藤孝ヲ令レテ一色ト伐チ丹後を略シ○羽柴秀吉播州ヲ拔ク尼不勝久小上月乃城を守ラシ小早川隆景吉川元春大軍ト以テ是ヲ圍ム信忠朝臣後援トシテ發向リテ地利便アリテ軍と取リ勝久ハ衛ツキト自殺シ山中鹿ノ助幸盛ハ途中ニテ討シ○大友義鎮伊東義祐由入のオ免薩州義久トセテ敗後ト是トシテ九州のウチ大友小そむくもの多シ○長曾我助元親阿波讀岐ト略ス三好存保防我レテ利アラサオ秀吉毛利ト但馬因幡ヲたくム○武田勝頼上州ヲ出張シテ北条方の諸城ヲ陷ス○肥前乃龍造寺隆信勇猛小トテ兩筑肥豊ヲ攻入リ大友嶋津ト鼎足のいきハヒトナす○同七年信長公惟任日向守光秀ヲ命シテ丹波を取ラシ波多野秀治カ治ム○此年宇喜多直家卒ス

正親町天皇五年英雄爭衡圖

正親町天皇



新朝

夷蝦

幕府

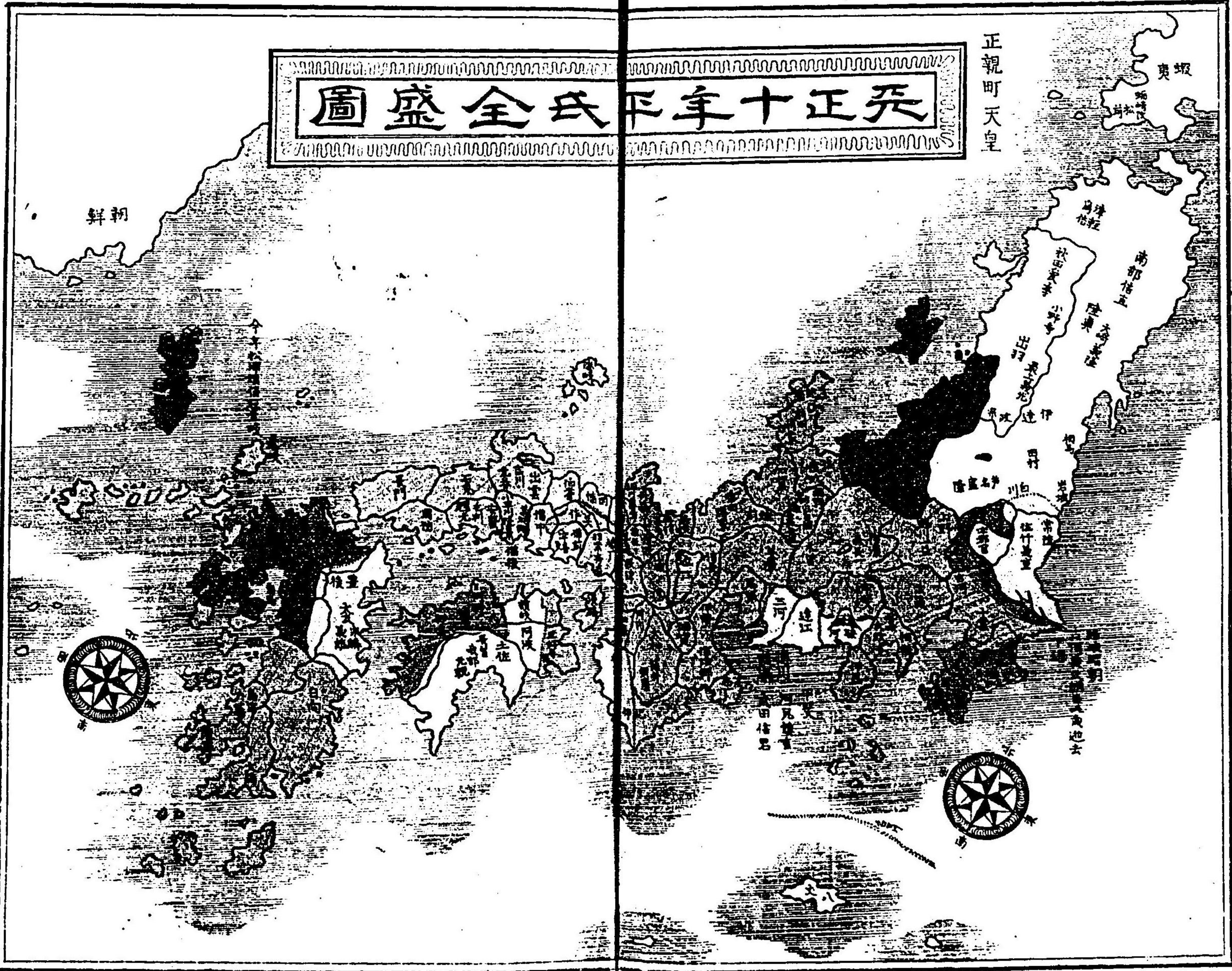
天正十年平氏全盛圖

二月織田信長公武田家を伐信忠は先達く發向り美濃信濃の諸城と下
一進て甲斐の國へ勢え入は武田勝頼敗走り天目山にて殺死を同三
月信長公も既ら到るり瀧川一益ヶ功と賞し上野一國を信州佐久郡等
とらえ入關東の諸軍事を統領せしむ甲信駿遠四州の地も又かのく
領ち授く○柴田勝家森長一と道と分ち上杉と伐ち景勝と信濃
越中にて合戦も○同四月羽柴秀吉備中よせ先入り毛利と對陣して
援兵と安土よき依て惟任日向守光秀池田信輝等とはうはるる先
又三七郎信孝三郎丹羽長秀等とけり丹羽長秀等と討しむ
信長公もはひく出陣のを先京師に到り同六月二日の曉惟任光秀叛逆
し信長公此旅館本能寺と築ひて是を殺し信忠卿は妙覺寺にまてり
二條に於て殺死し中ふの事とあり諸國大に擾亂せり
矣小羽柴秀吉は毛利と備中よき對陣せしむ和法して播磨に入り

三七郎信孝丹羽長秀中川清秀高山長房等の兵と會し山崎ふく惟任光秀
と合戦を惟任大に敗し小栗袖を走り農兵のを先討は是にて羽柴
秀吉乃威名遠近よとく洩く○六の念札汝個ひ長曾我部元親阿波とせ先取
伊豫と侵も小笠原貞慶ハ本曾善昌と逐ひ撃く信濃の本領と取つへす
○羽柴秀吉故信忠郎の知息三法師九をきて嗣主とてや流兵種
と號し○同十一年三七郎信孝柴田勝家尾張越前より兵と擧る秀吉と伐つみ
な克せしく不泊ぶ秀吉乃猛勢すけく強大かり秀吉州前田利家の
雄略をさしとてはひく北州乃獨據る○同十二年秀吉大率し多伊勢より
入る諸城と下り尾張小む信雄マカ微より防さかしく援兵と
駿遠は信山その孤弱を憐み給ひく助けり同四月羽柴尾州と
里轉し参州伐侵入小牧長久はいきて大に敗績すやのち
和法するひりるを先とて兵亂をたまさす

正親町天皇十年壬午氏全盛圖

正親町天皇



朝鮮

奥坂



天正十四年豊臣征遠之圖

つゝ小田四十二年龍造寺隆信は同小幡系の有馬晴徳入道と攻むる小幡と
薩州より援兵を遣はし龍造寺隆信は死すつゝ龍造寺隆信の遺志を継ぎ
強く且徳は義久の令才同義弘號龍造寺隆信の遺志を継ぎ
不ふし時大友乃一扶三花龍造寺隆信の遺志を継ぎ
ハ敵軍豊後小幡はよむる又隆信没後その子政宗嗣ぐ銅萬直茂はよく
武略と老をす小幡を合く領地を併て置 ○今年龍造寺隆信の遺志を
略し軍府よりち入秋月桂実も是小幡を大友義統の遺志を継ぎ
小幡よ小幡おひく西征の残り山陽南海の軍馬として先達を向せし
也同十二月徳川秀豊後に入を義統豊前へ還く○此小幡久龍造寺の兵肥
後日攻入り小幡川ホ乃統軍院を豊前へ渡海せしやややく義弘を令して軍を油
へきす

まゝに薩州を討入り合戦ありてついでに薩州を平定す
○同十六年肥後幸播のるについでに肥後を平定す
西行長を授く ○同十七年奥州の伊達政宗合津の芦名義廣と逐く其の地と
併せ武威東州のゆゆ山常陸の佐竹義重兵馬強く北条伊達と併せし
其の出羽の最上義光と又一方の雄と併せし ○同十八年豊臣關白北条氏と併せ
氏政遂に滅亡し奥羽に至るまで悉く平定せり

文禄元年三月より朝鮮征伐の師起りて八道乃州縣大を
陥りその困り李昭と併く出さす我兵も進むと明公と
討伐せんを誓ししハ神宗帝基命を邪指李如松ホリ大軍と
智し朝鮮を援けし我兵すあらはし長三年八月豊臣太
閤去りしを諸將に告げ陣とあせり

正親町天皇十四年臣征遠出圖

正親町天皇

秀吉公以攝州
大阪為都城矣

下野那須資唯
宇都宮團細

群朝



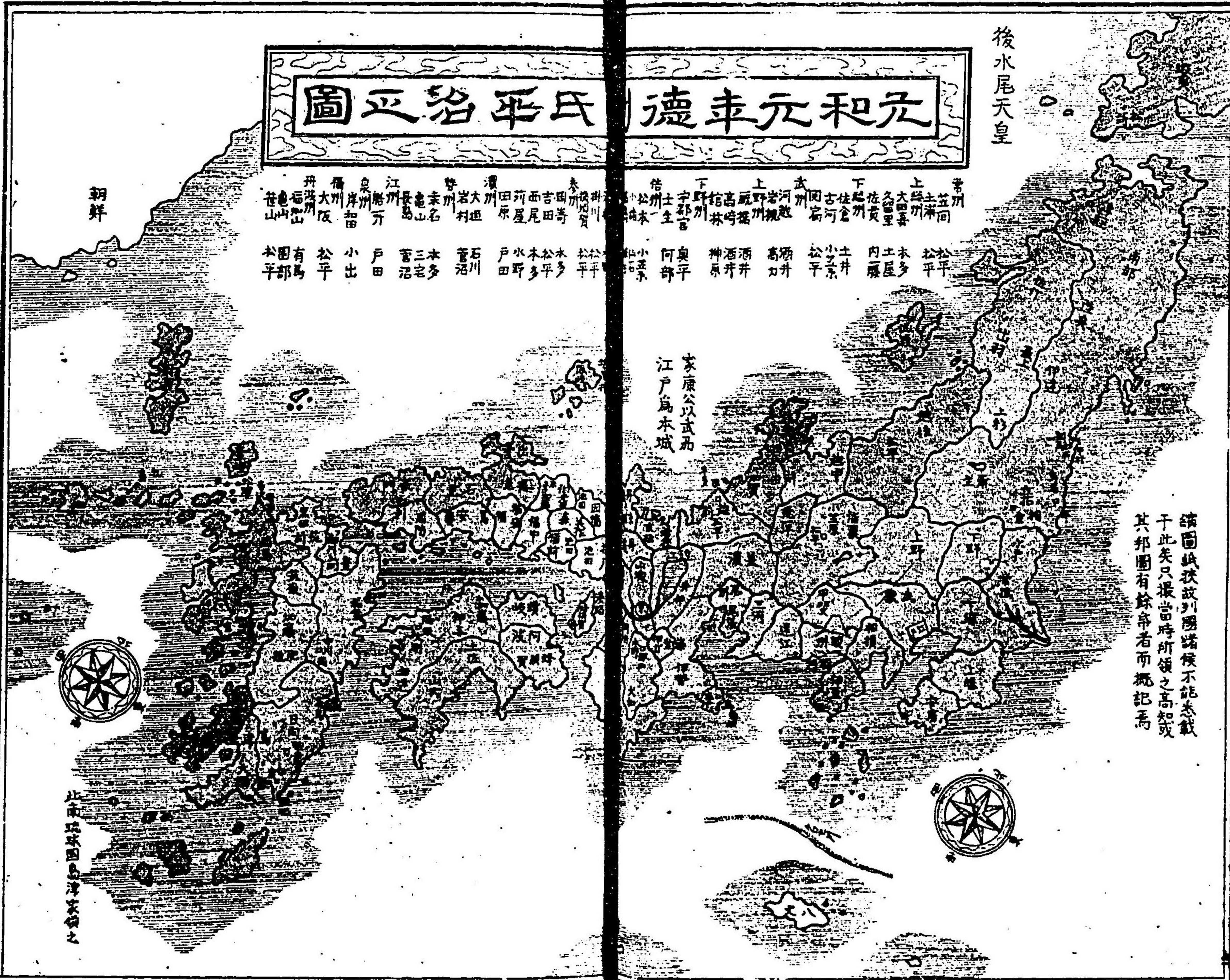
元和元年徳川氏平治之圖

慶長五年冬十月江州佐和山の城主石田治部少輔三成叛逆を企く幼君秀頼公の命と備置小西行長安国寺惠瓊僧と歎き五畿北陸西海の共催促し徳川家康公を討つ亡さん大軍を率い馳對ふ處家康公是天下の一大事ありと大驚愕さむ石田僧の逆賊と撃平さんと数万騎を引率し濃州岡原を放し關戦す時石田の自軍の將家康公は翻攻をかき是に於て忽ち總頼れとあり敗北し三成を叛れ小西安国寺僧庸とあり三條河原を象首とす同六年上杉佐竹乃而將家康公を降す同十一年江戸の城成就す同十六年家康公上洛りて二条の城に於て秀頼公と對面しは這時加藤清正秀頼公と守護して大坂に飯城に後清正本團隈本の城中に病死す前関東乃命に因り秀頼公洛東大佛殿を再言ふに梵鐘と鐃を南禅寺の長老清辨僧鐘の銘文を作す処文中に不審の語ありとて關東乃指圖に因り文字を別らす是を關原年盾に及び豫て秀頼公を執さんと同十九年冬家康公并江戸將軍秀忠公の兩將五十万余騎の大軍を率いて大坂城を責むさんと馳討ひむ大坂

城中小も防禦乃隊伍とあり真田幸村軍師と司りて軍配とす故關東の大軍幸村の奇計にかりり居敗軍小及び討死ふを將數百騎後和睦とありて迷ひ誓書と取て關東の諸勢陣と排ひて飯國をかざる小秀頼公盟約に叛らば家康公怒て翌元和元年五月若く大軍を發し大坂城を攻む木村重成後藤基次薄田半人長曾我部元親僧の將討死す東軍威ひし衆して奮我部一源忠直幸村の隊伍を擊頼し幸村と討つ是よりつて大坂勢徳崩れとあり東軍の隊小討取頭一万五十余級忠直城中へ先登して塞樓々々火を放ち燒立る秀頼公同く母公淀殿自殺おせば這時御側小従ふ輩二十四人伏劍を其外婦女十余人殉死す豊臣家三代是に滅亡ふ徳川家平治乃天下とありとす

元和元年平氏名圖

後水尾天皇



上野
 下野
 武河
 古河
 小井
 内土
 松平
 阿平
 神井
 高井
 酒井
 神井
 阿平
 松平
 内土
 小井
 古河
 武河
 上野
 下野

續圖缺狀故列國諸侯不能悉載
 于此矣只據當時所領之高知或
 其邦國有餘帛者而概記焉

家康公以武島
 江戸島本城



明治紀元戊辰 王政御維新改國圖解

慶應元年乙丑五月徳川十四代將軍家茂公長洲を征伐せんと麾下數
万騎を引率し江戸進發ありて大阪城を以て兵を以て同二月六日先鋒の軍
兵長門を進戦し利ありて同八月家茂公大阪城中に於て病歿す。是より
是より先鋒の軍を以て先鋒の軍を以て大阪を以て然して家茂公天子
の命を以て嗣子ありて因て支族一掃中納言慶喜卿を後嗣とす。内大臣
征夷大將軍を任ぜしむる。慶喜卿の業をついで再び長洲を征伐せんと
欲し自らに忽天下多事ありて遂に將軍職を辭し大阪城を退去せしむ。○明治
元年戊辰正月三日松平容保に謀りて大兵を率い入京せんとし。禁廷
より諸侯を以て九門を護せしむ。及び要路に防禦の兵を設置せしむ。慶喜卿の
兵まつ伏見鳥羽淀に戦ふ。是より仁和寺宮純仁親王と征討將軍に任じ東軍を
討し。捕葉橋本に於て大に戦ふ。官軍勝利あり東軍大に敗し大阪より
退く。就中肥前守走らるもの多し。同月九日薩州長洲の軍大阪に入。慶喜三
四侯を従え軍艦を以て江戸に遁散す。征討大將軍大坂を進軍し敗残する
兵を平定す。二月

天皇關東御親征の治兵として大阪より行幸ありし。任吉及座戸の社を詣り
て。心慶喜罪を謝して江戸を出て水戸に退き謹慎す。麾下の士上野東叡山より屯
據し。兵勢益盛なり。同五月十三日官軍上野を火攻す。東軍退き。水戸より清
走す。而してのり武蔵の關を於てあひく。戦争あり。東軍利あり。敗走し。獨容保
王命を奉せり。關東脱走の士を輯め。層城に擁護す。益不順の志を還
し。兵勢北方に震ふ。又伊達上杉酒井南部の諸藩會津を應援す。官軍大舉
る大に討伐す。又北越不。朝の藩あり。長岡牧野巨魁としてる。戦ふ。同七月
江戸を東京と改号せしむ。九月
天皇蒼生御慈撫のゆゑ東京より行幸ありし。同月廿三日會津降す。是より於て
興利北越の擾亂とて鎮靜す。同十二月陸奥を討て。磐城岩代陸前陸中を置
て以上五ヶ國として出羽を羽前羽後之二ヶ國に分割す。於是天下咸く王政を復し
天皇龍興の時勢仰懐ふ。人カの通ずる所。霜露の墜る所。凡入。尊親
を以て。宣國とんや。一安。禍を更めて。天下靜謐。治。御代高歳を唱ぬ
る。い。ん。と。は。

東武鎮堡 備有兵士六隊

武藏 上野 下野 常陸 下路 上野 安房 相模

第一分營新湯 備有兵士一大隊

管 越後 羽前 越中

第二分營上田 備有兵士一小隊

管 信濃

第三分營有古屋 備有兵士一大隊

管 尾張 伊勢 伊賀 志摩 遠江 三河 美濃 飛騨

大阪鎮堡 備有兵士五大隊

山城 大和 河內 和泉 紀伊 伊波 播磨 攝津

第一分營小濱 備有兵士一大隊

管 若狹 近江 越前 加賀 能登 越波 丹波 但馬

第二分營高松 備有兵士一大隊

管 讃岐 阿波 土佐 伊豫 淡路

鎮田鎮堡小倉 備有兵士二大隊

管 出雲 備前 美濃 筑前 肥後 豐後 野馬

第一分營廣島 備有兵士一大隊

管 安藝 備中 備後 出雲 石見 隱岐 備前

第二分營高見場 備有兵士四小隊

管 備前 備中 備後 出雲 石見 隱岐 備前

東北鎮堡石巻 備有兵士一大隊

管 陸奥 岩手 秋田 陸前 陸中

第一分營青森 備有兵士一小隊

管 陸奥 利根

明治五十四年府縣分割圖解

明治二已年東奧暴徒暴走の徒夷敷小據居し七借王命の抗者官軍渡嶋し七悉くこれと平治を有功の諸侯賞典各差あり同年蝦地と開拓し北海道と号し十一ヶ國小割割り午年封建の制弊害不少を以て諸侯版籍奉還を辛未朝廷諸藩を廢し三府七十二縣を置しその郡縣の美制に至るに申六月 天皇西國を幸るに七月東京小遷幸上下萬歳をとなす

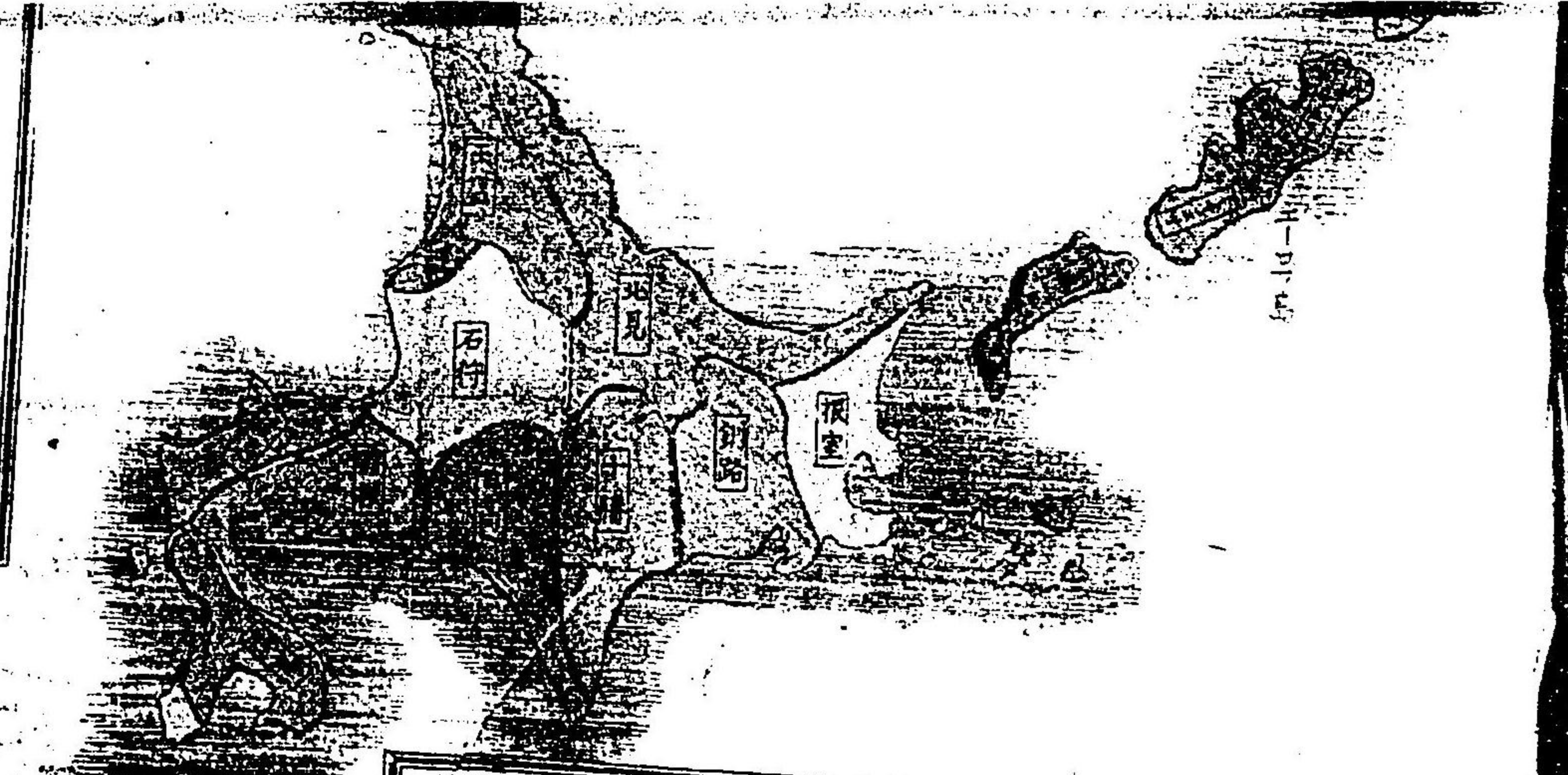
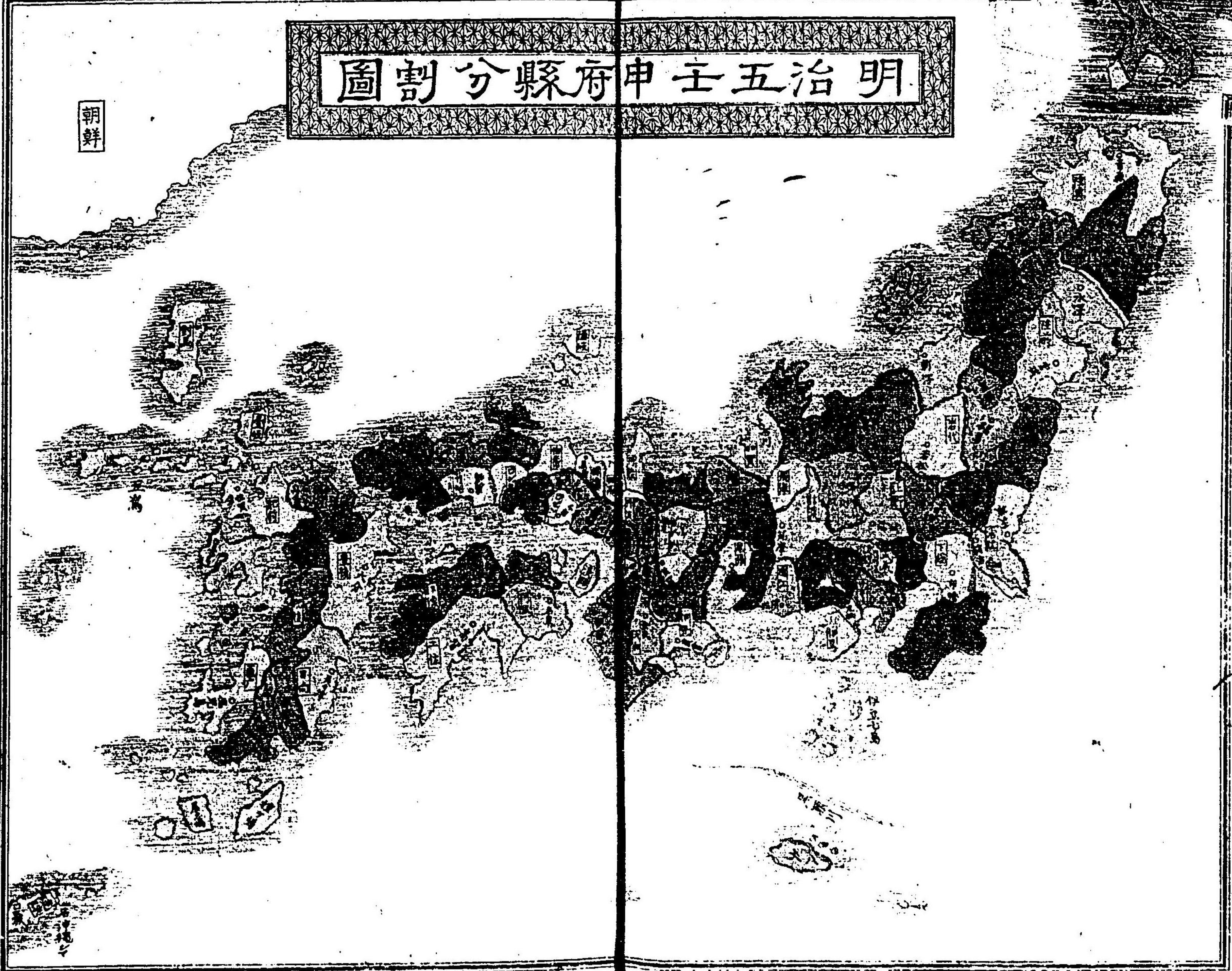
府 縣 管 轄 表

Table with columns for Prefecture (府), County (縣), and Subprefecture (管轄). It lists various administrative divisions such as 東京府, 大阪府, 京都府, etc., along with their respective counties and subprefectures.

岩陸中六郡 手二十四石余 置羽前一郡 賜二十八石余	閉伊和賀 紫波若手九戸 置賜之内 龜田郡上磯福島	津輕檜山爾志 久延奥尾大樽瀬棚 嶋牧吉部歌兼磯屋 岩内古字積丹美園吉平 餘市忍路高嶋小樽	此見 宗谷利尻禮文 枝幸欽別常呂 網走斜里 廣尾當線上川 中川河東河西 十勝	十勝 網走 廣尾 中川 河東 河西	石加賀一圓 江沼能美石川 河北 新越後二郡 浦原岩松	浮後一圓 和佐與謝丹波竹野野野	河津三郡 檜旗美含二方七美 多紀水上天田 濱石見一圓 安濃通戶那賀 田八方石余 邑知鹿足美濃	岡備前一圓 和氣磐梨邑赤坂上道 山四十二方石 上東御野津高兒嶋 山周防一圓 大島能毛玖珂郡濃佐波 長門一圓 吉敷 厚田厚東豐西豐東 八十九方石余 大津美禰阿武豐田	香讀岐一圓 大津美禰阿武豐田 川三十方石余 大津美禰阿武豐田 高土佐一圓 安藝香美長岡土佐 知四十九方石 吾川高岡樽多 小豊前一圓 田河企救京都仲津 倉二十六方石余 上毛下毛宇佐築城	長肥前二郡肥 根折高美松浦之内 壺坂一圓 壺坂石田 特二十九方石余	都日向三郡 那珂郡内宮崎郡内 大隅六郡大 諸縣郡内 城四十三方石余 給羅肝馬	青陸奥一圓 森外松前 三十八方石余 山羽前一郡 形四十五方石余 石狩	二戸三戸 葦輕 村山最上 置賜之内 石狩札幌夕張樺戸 室知兩龍上川 厚田濱益 山越蛇田有珠 室蘭幌別白老 勇拂十歲 白糠足奇 阿寒細尾川上 厚岸	敦越前一郡 若狹一圓 賀二十三石余 七能登一圓 尾越中一郡 尾越後五郡 射水 相越後一圓 高草美多八東岩井	今立南條敦賀 遠敷大飯三方 珠洲 羽咋鹿島鳳至 射水 頰城古志魚沼 前羽三島	取四十五石余 會見日野 明石賀古三木赤穂 依用多可揖西揖東 銚西銚東神西神東 賀西賀東印南穴東 都宇窪屋如依下道淺口 小田後月世多阿賀上唐 沼隈深津安那呂治 芦田神石 伊都那賀名車海部 有田日高牟婁郡内 中野野間新居周布 赤村越智風早和氣 温泉伊豫 怡志志早良那珂郡田 精屋宗像鞍手香麻穂波 上座下座御堂津賀夜須 日高球珠直入大野 海部大分遠見園時 玉名山鹿菊地山本阿蘇 地戸能田合志上益城 那珂郡内宮崎郡内 諸縣郡内免湯白折	秋陸中一郡 羽後七郡 由利川又秋田山本 田酒 羽前一郡 羽後一郡 田 天塩 日高 根室 足越前一郡 羽五十四方石 新越中三郡 川六十八方石 相佐渡一圓 川十三方石余 嶋出室一圓 德岐一圓 根	鹿角 雄勝 仙北 留萌 古前 中川 靜丹 樣似 野付 丹生 婦員 加茂 標津 野梨 吉田 大野 新川 加茂 根室 花咲 根室 標津 野梨 吉田 大野 新川 加茂 根室 花咲 根室 標津 野梨 吉田 大野 新川 加茂
------------------------------------	-----------------------------------	--	--	----------------------------------	--	--------------------	--	---	--	---	---	---	--	---	--	--	---	--

明治五壬申府縣分割圖

朝鮮



朝鮮



源藏

しるし
よほり
しるし

しるし

法代のまゝの如

大原家

大槻東陽編輯

明治庚午初冬

官許

大原家藏版

三府

京都寺町本能寺前

錢

屋惣四郎

發行

大塚心齋橋通本町

敦賀屋喜

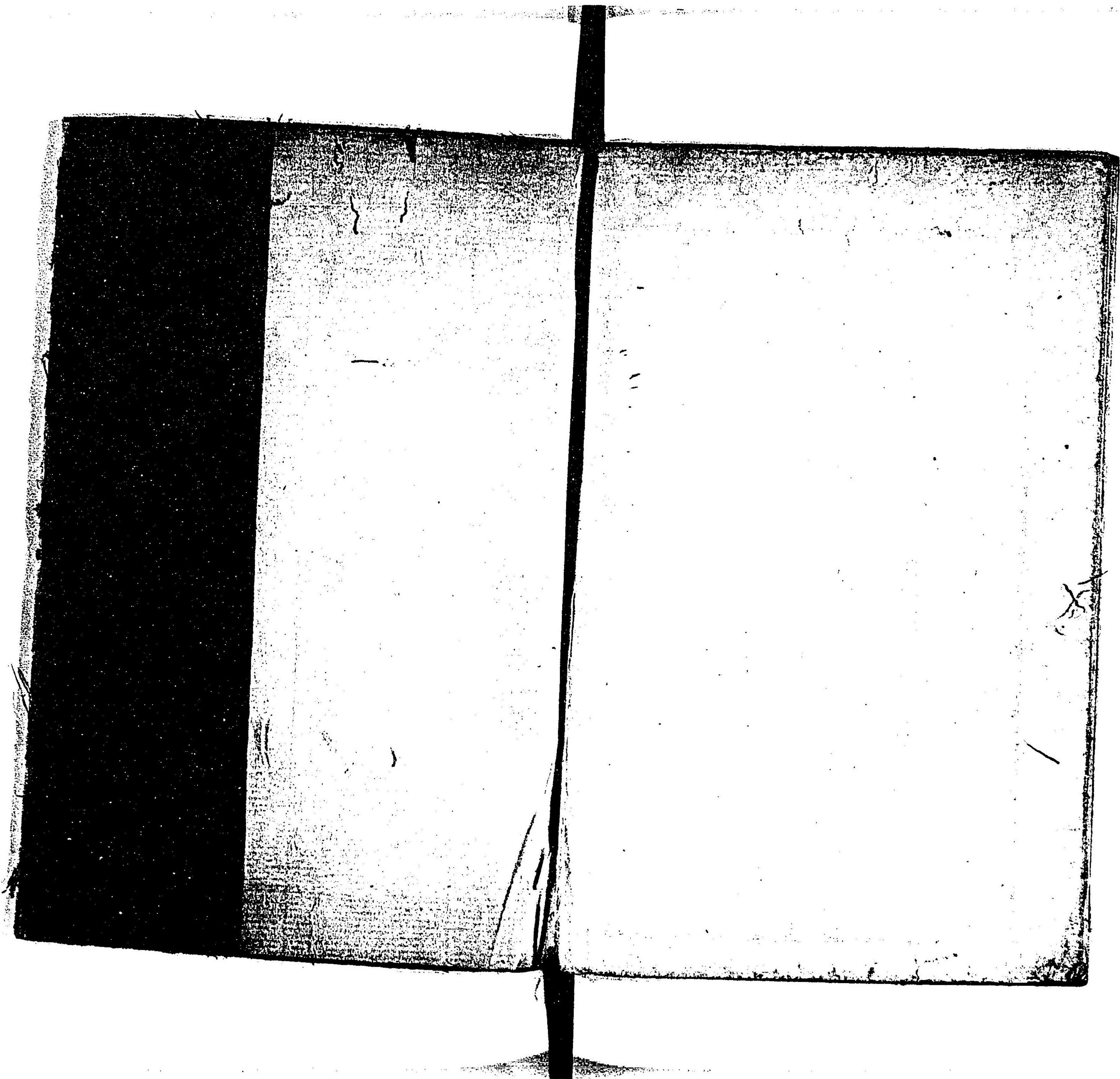
藏

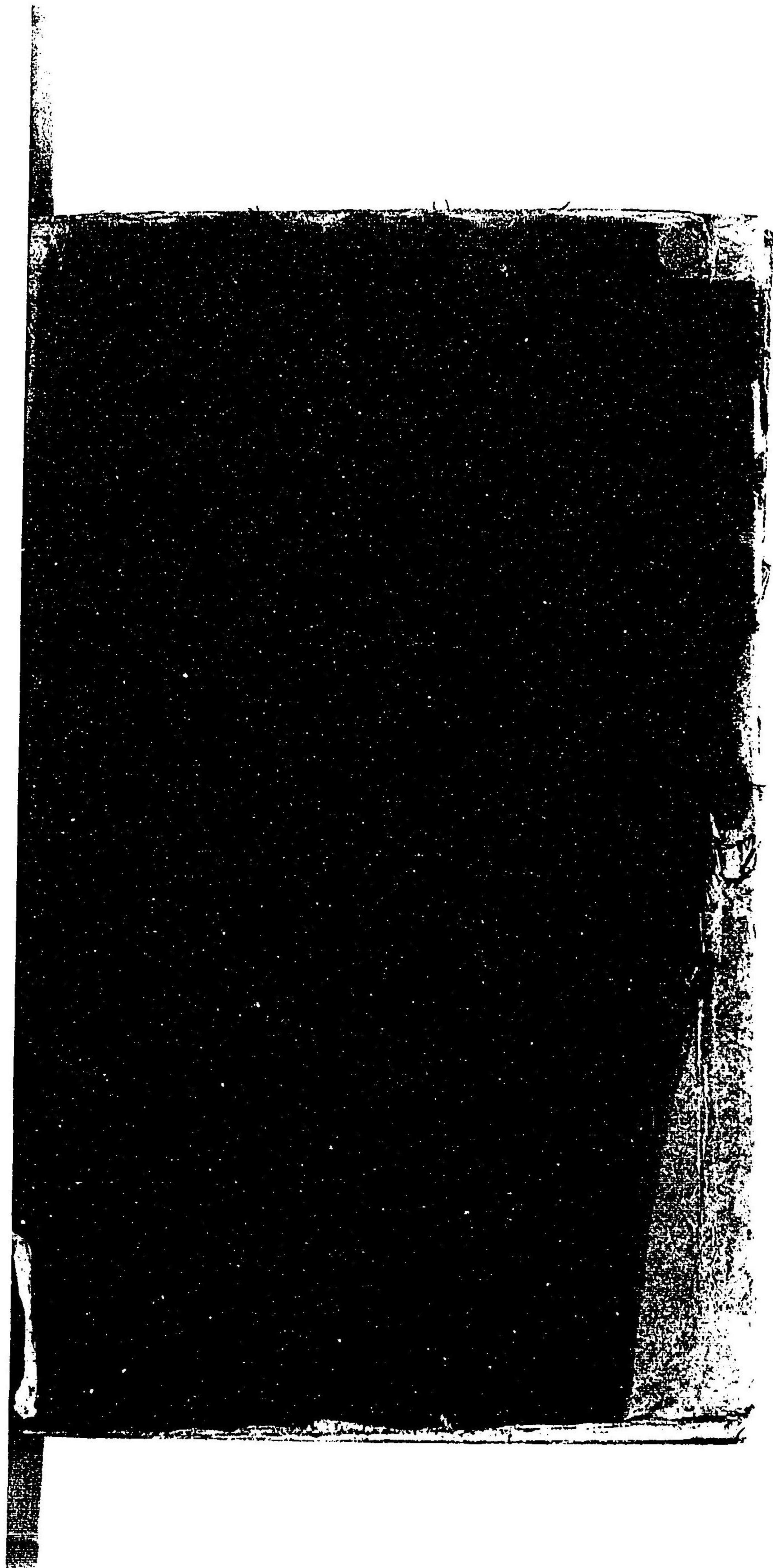
書肆

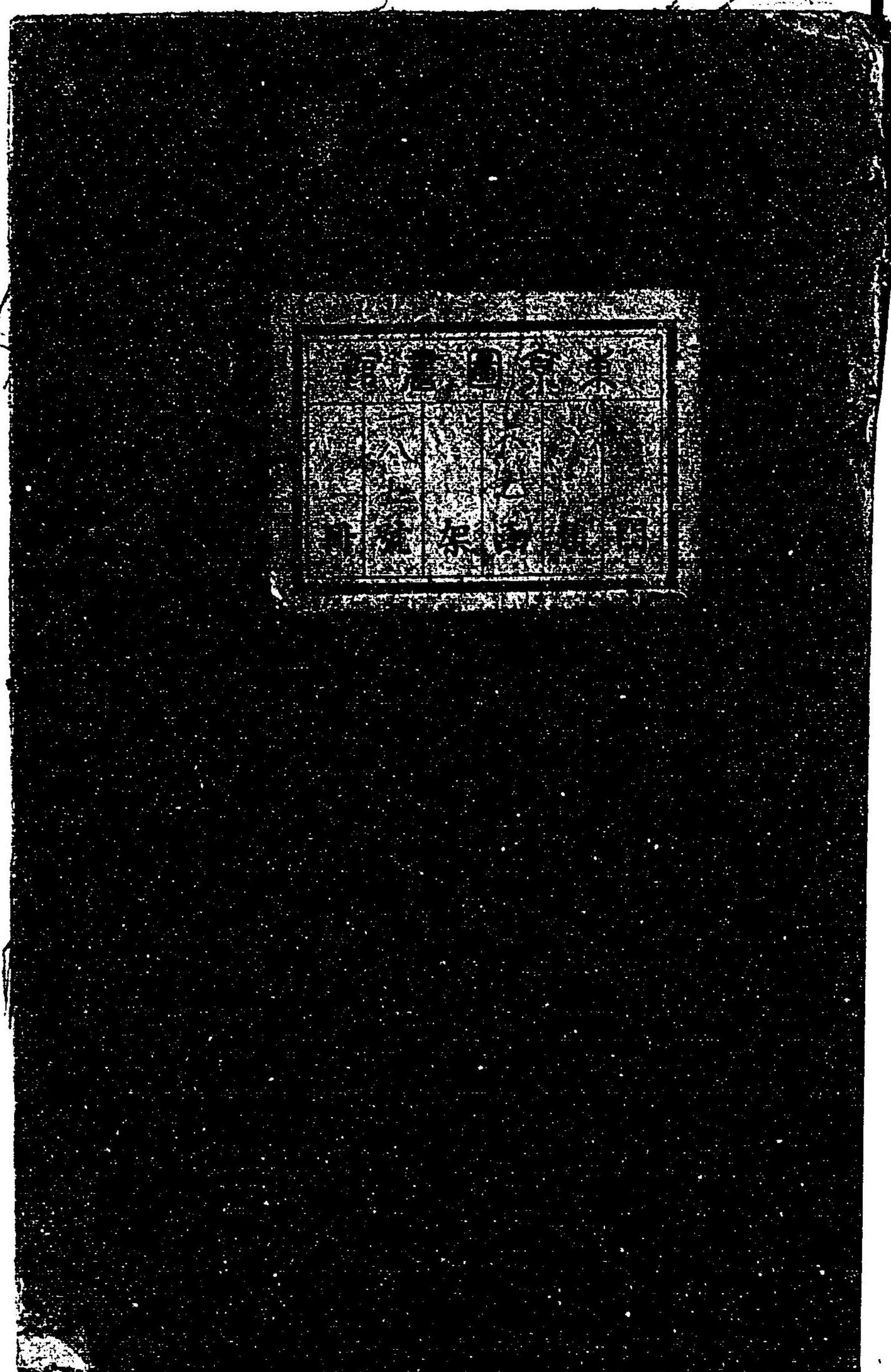
東京大塚馬場三丁目

袋

屋龜次郎







000433-000-7

67-185

皇朝歷代沿革図解

大槻 東陽/編

和1冊

M3

ACB-0482



